

シラバス

(Syllabus)

— シラバス 目次 —

1	カリキュラムの主要概念	1
2	基礎分野（14 単位）	2～14
3	専門基礎分野（22 単位）	15～34
4	専門分野（66 単位）	
1	基礎看護学	35～55
2	地域・在宅看護論	56～67
3	成人看護学	68～74
4	老年看護学	75～82
5	小児看護学	83～90
6	母性看護学	91～96
7	精神看護学	97～104
8	看護の統合と実践	105～111
9	臨地実習	112～119
5	授業科目、単位数、時間数、実務経験のある教員、講師の職種等	120～121

1 カリキュラムの主要概念

【人間】

- 1 人間は身体的・精神的・社会的存在の統一体であり、生涯にわたり成長発達する。
- 2 人間は自然環境および社会環境との相互作用により絶えず変化する生活者である。
- 3 人間は可能性をもち、自己実現を目指していく存在である。
- 4 人間は、信念、価値観等固有の自己概念をもち、いかなる状況下においても尊厳を持ち、権利を尊重される。

【健康】

- 1 健康とは、身体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であって、単に病気や虚弱でないだけではない。
- 2 健康状態には最良の健康状態から死までの連続的なレベルがある。
- 3 健康に影響を及ぼす要因として、身体的要因、環境的要因、精神的・社会的要因がある。
- 4 望ましい健康状態とは、その人の身体的・精神的機能が十分に発揮され、社会に適応している状態をいう。
- 5 健康はクオリティオブライフ(QOL)を高めるための資源である。

【環境】

- 1 環境は人間をめぐる、物理的・精神的・社会的すべてのものである。
- 2 環境は、人間生活と相互に影響し合い絶えず変化する。
- 3 環境は、人間に直接的・間接的に影響を及ぼし、健康状態を変化させる。
- 4 人間環境における社会は、個人・家族・集団・コミュニティから構成される。

【生活】

- 1 生活とは、生理学的・文化的・社会的背景・経済的の4つの側面を含む包括的な概念である。
- 2 生活とは、自己の内面化と他者とのつながり合いをもち続けながら、かけがえのない個人としての営みを続けるプロセスである。
- 3 人の生活は、その人が生まれた時から死に至るまで続くプロセスであり、それは環境との相互作用により行われる。
- 4 個人の生活は、自分らしくあるために、また自分にとって家族にとって意味のある人生を希求する行為の営みである。
- 5 生活行動は、その生活をする個人レベルの営みであり、人間が生活を維持するために行う習慣的、日常的なケアをいう。

【看護】

- 1 看護は、成長発達段階にある全ての人、ならびにあらゆる健康レベルにある個人または集団を対象とし、健康の保持・増進、および回復のための援助を行うことである。
- 2 看護は、対象となる人と看護者との人間関係を基盤として行うものである。
- 3 看護は、人間の生命、および健康をまもり、環境を整え、日常生活や社会生活への適応を援助し、地域での社会生活ができるように支援することである。
- 4 看護は、対象の健康にかかわる問題を明らかにし、その問題を解決するために、系統的に働きかけることである。
- 5 看護は、専門職としての役割を担い、多職種と連携し、協働する。

2 基礎分野 (14 単位) 376 時間

【目的】 看護の対象である人間を広く理解し、科学的思考力を高め、感性を磨き、主体的な判断力と行動を身につける。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	生物と環境	1	16	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>生命に関するマイクロからマクロまでの現象を広く学び、生物同士および生物と環境の関わりを理解する。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> なし</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 生命の起源				講義
	2	2 細胞から組織、個体へ				講義
	3	3 個体の複製・増殖				講義
	4	4 生物群集				講義
	5	5 生態系				講義
	6	6 生物多様性				講義
	7	7 人間活動と環境				講義
8	総括				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	統計学	1	30	1	前期	
<講義のねらい> 統計学の基礎知識と統計計算の基本が理解でき、統計的資料を活用することができる						
<到達目標>						
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況						
<テキスト> なし						
<参考図書>						
<講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 統計学とは 母集団と標本				講義
	2	1 統計学とは 母集団と標本				講義
	3	2 度数分布表とヒストグラム 度数分布表				講義
	4	2 度数分布表とヒストグラム 標本平均、標本分散の近似計算 ヒストグラム				講義
	5	3 正規分布 正規分布とは 標準正規分布				講義
	6	3 正規分布 正規分布表 表記性器分布の応用				講義
	7	4 母平均の区間推定 標本平均の信頼性 区間推定とは				講義
	8	4 母平均の区間推定 信頼区間の求め方				講義
	9	5 母平均の区間推定 2 信頼区間の求め方 2				講義
	10	5 母平均の区間推定 2 標本分散の公式				講義
	11	6 仮説検定の概念 仮説検定とは 仮説検定のやり方				講義
	12	6 仮説検定の概念 母分散が既知の時の平均値の検定 母分散が未知の時の平均値の検定				講義
	13	7 二標本の平均の差の検定 試験の平均値計算				講義
	14	7 二標本の平均の差の検定 二標本の平均の差の検定				講義
15	総括				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	情報科学	1	30	1	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>看護における情報と基本的なコンピューター使用方法を理解し、情報の通信・検索・収集・加工・発信などの情報処理方法について理解し、活用することができる。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 看護情報学（医学書院）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 情報リテラシーとは何か				講義
	2	2 パソコンの歴史とその仕組み				講義
	3	3 インターネットの歴史とその仕組み				講義
	4	4 ネット上の様々なサービスとその問題点				講義
	5	5 著作権入門（正しい引用とは）				講義
	6	6 情報セキュリティの基本				講義
	7	7 ネット依存症と SNS 利用に関する問題（情報モラル）				講義
	8	8 パソコンの基本的使い方				講義
	9	9 Excel を用いた表計算ソフトウェア演習				講義
	10	10 調査によるデータ収集				講義
	11	11 インターネット上での情報収集				講義
	12	12 収集データのまとめかたと報告の仕方				講義
	13	13 PowerPoint を用いたプレゼンテーション制作				講義
	14	14 プレゼンテーション演習				講義
15	14 プレゼンテーション演習				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	哲学	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>哲学的思考から人間存在の意味や価値について考えることができる。</p> <p>思想（仏教）へのまなざしをもって、さまざまな社会事例を交えつつ「看護」をテーマに「自らの問題」として主体的に考察する。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 哲学ってどんなこと？とっても短い哲学入門（昭和堂）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	哲学とは 臨床哲学とは				講義
	2	医療現場と生老病死について				講義
	3	和顔愛語の看護哲学				講義
	4	縁起思想(共生の原理)について				講義
	5	現代と臨床哲学(仏教思想)				講義
	6	哲学とは何か				講義
	7	どうやって私たちは、何かを知るのだろうか				講義
	8	どうやって私たちは「他人の心」知ることができるだろうか。				講義
	9	正しいことと不正なこと				講義
	10	正義				講義
	11	命の「終わり」は誰が決めるのか				講義
	12	命の「始まり」は誰が決めるのか				講義
	13	死について				講義
	14	人生の意味				講義
15	HIV/AIDSの現状と課題				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	コミュニケーション論	2	30	1	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>コミュニケーションの基本的な理論を講義や演習を通じて学ぶことで、日常や医療現場でのコミュニケーションについてその理論を用いてメタ認識でき、自らのコミュニケーション力を改善していける力をつける。</p>						
<p><到達目標></p> <p>コミュニケーションの基本的な理論を理解する。日常や医療現場でのコミュニケーションについて、その理論を用いてメタ認識できる。それにより自らのコミュニケーション力を改善していける力がある。</p>						
<p><評価> 各章に関する小レポートと、グループ発表内容、最終レポートによって評価を行う</p>						
<p><テキスト> 宮原哲『入門コミュニケーション論』（松柏社、2006年）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	コミュニケーションについて学びたいことは何か				講義と演習
	2	人間コミュニケーションの基本的な考え方				講義と演習
	3	ことばとコミュニケーション				講義と演習
	4	ノンバーバル・コミュニケーション				講義と演習
	5	認識コンピテンス				講義と演習
	6	人を動かすコミュニケーション・コンピテンス				講義と演習
	7	対人コミュニケーション・コンピテンス				講義と演習
	8	小集団コミュニケーション・コンピテンス				講義と演習
	9	組織内コミュニケーション・コンピテンス				講義と演習
	10	異文化間コミュニケーション・コンピテンス				講義と演習
	11	コミュニケーションをめぐる心理学1				講義と演習
	12	コミュニケーションをめぐる心理学2				講義と演習
	13	対話を促進するコミュニケーション				講義と演習
	14	紛争解決のコミュニケーション				講義と演習
15	まとめ				講義と演習	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	教育学	1	30	2	前期	
<講義のねらい> 教育の概念、必要性を理解し、人間にとっての教育の重要性を理解する。						
<到達目標>						
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況						
<テキスト> 教育学（医学書院）						
<参考図書>						
<講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 人はなぜ教育を必要とするのか(1)				講義
	2	人は何故教育を必要とするのか(2)				講義
	3	2 子育てとしての教育 (1)				講義
	4	子育てとしての教育 (2)				講義
	5	3 education の意味と歴史				講義
	6	4 教育における保護と権利				講義
	7	5 現代の特徴と従来我が国の教育の基本思想				講義
	8	6 教育課程の考え方 (1)				講義
	9	境域課程の考え方 (2)				講義
	10	7 現代の児童生徒とその周辺の現状				講義
	11	8 これからの教育を考える(1)				講義
	12	これからの教育を考える(2)				講義
	13	これからの教育を考える(3)				講義
	14	これからの教育を考える(4)				講義
15	9 これからの看護と教育				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当																																																		
基礎分野	文学	1	30	1	前期																																																			
<p><講義のねらい></p> <p>これからの日本社会は、今より広く、かつスピーディーに国際化されることが容易に予想される。そこで、国際的な知識を学び、これからの複雑で多様なニーズに応えるための基礎教養を身に付ける。</p>																																																								
<p><到達目標></p> <p>日本と地理的に近いアジア諸国の歴史や文化と日本との関わりについて、主に文学作品を通して理解する。</p>																																																								
<p><評価> ミニレポート 30 パーセント、終了レポート 70 パーセント</p>																																																								
<p><テキスト> 浦田義和著「沖縄の文学」</p>																																																								
<p><参考図書></p> <p>浦田義和著「占領と文学」（法政大学出版局、2007年）、</p> <p>浦田義和著「太宰治—制度、自由、悲劇」（法政大学出版局、1986年）</p>																																																								
<p><講義計画></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回数</th> <th>講義内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15">科目内容</td> <td>1</td> <td>講義概要</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本近代文学と「朝鮮」</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中島敦と「朝鮮」</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>湯浅克衛と「朝鮮」</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「朝鮮」作家張赫宙と日本</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代日本文学と中国・ハルピン</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>徳永直と中国・満洲</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間総括</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日本近代作家と上海</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>高村光太郎、金子光晴と中国・上海</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>豊島与志雄と上海</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>井伏鱒二と「南方」</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>占領下シンガポール英字新聞について</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>神保光太郎と「南方」</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>								回数	講義内容	方法	科目内容	1	講義概要	講義	2	日本近代文学と「朝鮮」	講義	3	中島敦と「朝鮮」	講義	4	湯浅克衛と「朝鮮」	講義	5	「朝鮮」作家張赫宙と日本	講義	6	現代日本文学と中国・ハルピン	講義	7	徳永直と中国・満洲	講義	8	中間総括	講義	9	日本近代作家と上海	講義	10	高村光太郎、金子光晴と中国・上海	講義	11	豊島与志雄と上海	講義	12	井伏鱒二と「南方」	講義	13	占領下シンガポール英字新聞について	講義	14	神保光太郎と「南方」	講義	15	総括	講義
	回数	講義内容	方法																																																					
科目内容	1	講義概要	講義																																																					
	2	日本近代文学と「朝鮮」	講義																																																					
	3	中島敦と「朝鮮」	講義																																																					
	4	湯浅克衛と「朝鮮」	講義																																																					
	5	「朝鮮」作家張赫宙と日本	講義																																																					
	6	現代日本文学と中国・ハルピン	講義																																																					
	7	徳永直と中国・満洲	講義																																																					
	8	中間総括	講義																																																					
	9	日本近代作家と上海	講義																																																					
	10	高村光太郎、金子光晴と中国・上海	講義																																																					
	11	豊島与志雄と上海	講義																																																					
	12	井伏鱒二と「南方」	講義																																																					
	13	占領下シンガポール英字新聞について	講義																																																					
	14	神保光太郎と「南方」	講義																																																					
	15	総括	講義																																																					

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	法学	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>「社会を映す鏡」である法の中でも、特に日本国憲法、民法、刑法に焦点を当て、その基本原則と重要な条文の内容を明らかにし、社会の諸問題を法的に解決することの意義や方法を学ぶ。</p> <p>さらには、これらの知識を活用して、医療と法をめぐる問題領域についても考察を深め、社会人として、専門職として期待される基礎的な法的知識と思考方法を身につける。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 福祉小六法</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	授業案内、法学の基礎				講義
	2	日本国憲法(1) 憲法の地位・基本原理、人権総論				講義
	3	日本国憲法(2) 包括的基本権、平等原則、精神的自由権、表現の自由				講義
	4	日本国憲法(3) 経済的自由権、人権の自由				講義
	5	日本国憲法(4) 国務請求権、参政権				講義
	6	日本国憲法(5) 社会権的基本権総説、生存権、労働基本権				講義
	7	日本国憲法(6) 平和主義の理念と内容、平和主義と自衛隊・駐留軍				講義
	8	小括				講義
	9	民法(1)	総則、物権・債権、債務不履行			講義
	10	民法(2)	不法行為、親族・相続			講義
	11	刑法(1)	刑法の基本原則、犯罪と刑罰の基本理念			講義
	12	刑法(2)	心神喪失者等医療観察法、基本理念			講義
	13	医事法(1)	医事法の基本原則、基本理念			講義
	14	医事法(2)	医事法各論			講義
15	総括				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	社会学	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>人間と家族・社会との関係を学び社会的存在としての人間の存在について、社会学的概念や理論について学習する。看護の実践にあたって必要な憲法感覚を身につける。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・小テスト・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> レジリエンスのための社会学（青山舎）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科 目 内 容	回数	講義内容				方法
	1	第1章 人間とは何か				講義
	2	第2章 行為と社会的相互行為				講義
	3	第3章 人間関係と社会関係				講義
	4	第4章 社会集団				講義
	5	第5章 文化と社会化				講義
	6	第6章 家族、親族、婚姻				講義
	7	第7章 性、ジェンダー、社会				講義
	8	第8章 地域社会と都市				講義
	9	第9章 組織と官僚制				講義
	10	第10章 逸脱と犯罪				講義
	11	第11章 身体と病気の社会学				講義
	12	第12章 国家、統治、権力、戦争				講義
	13	第13章 社会成層と階級				講義
	14	第14章 労働、教育、社会的機会				講義
15	第15章 社会の変動				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	外国語 英語	2	60	1	通年	
<p><講義のねらい></p> <p>国際社会に対応できる基礎的能力を養うと共に、看護に必要な医学英語・英会話を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験（中間・終了）・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 看護英会話標準テキスト（日総研）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目 内容	回数	講義内容				方法
	1	学習 OR 自己紹介				講義
	2	1	EMERGENCY DEPARTMENT	RECEPTION	講義	
	3	1	EMERGENCY DEPARTMENT	EXZMINATION ROOM	講義	
	4	1	EMERGENCY DEPARTMENT	GIVING INJECTIONS	講義	
	5	1	EMERGENCY DEPARTMENT	EXPLANATION TO A FAMILY MEMBER	講義	
	6	2	MEETING THE PATIENT	SELF-INTRODUCTION AND FIRST MEAL	講義	
	7	2	MEETING THE PATIENT	ORINATION TO THE WARD	講義	
	8	2	MEETING THE PATIENT	ORINATION TO THE WARD	講義	
	9	2	MEETING THE PATIENT	ASKING HEIGHT, WEIGHT, AND TEMPERATURE	講義	
	10	2	MEETING THE PATIENT	OBTAINNG THE PATIENT' S HISTORY	講義	
	11	3	GENERAL CARE OF PATIENTS	CHECKING THE PATIENT' S CONDITION	講義	
	12	3	GENERAL CARE OF PATIENTS	BLOOD TEST EXPLANATION	講義	
	13	3	GENERAL CARE OF PATIENTS	BLOOD TEST EXPLANATION	講義	
	14	3	GENERAL CARE OF PATIENTS	DRAWING A BLOOD SAMPLE	講義	
	15	中間総括				講義
	16	4	OPERATION ORIENTATION	EXPLAINING ABOUT THE OPERATION	講義	
	17	4	OPERATION ORIENTATION	EXPLAINING ABOUT THE OPERATION	講義	
	18	4	OPERATION ORIENTATION	TAKING THE PATIENT INTO SURGERY	講義	
19	4	OPERATION ORIENTATION	TAKING THE PATIENT INTO SURGERY	講義		

科目内容	回数	講義内容	方法
	20	5 POSTOPERATIVE CARE OBSERVATION AFTER OPERATION	講義
	21	5 POSTOPERATIVE CARE OBSERVATION AFTER OPERATION	講義
	22	5 POSTOPERATIVE CARE OBSERVATION AFTER OPERATION	講義
	23	5 POSTOPERATIVE CARE URINARY CATHETERIZATION	講義
	24	5 POSTOPERATIVE CARE URINARY CATHETERIZATION	講義
	25	6 PATIENT DISCHARGE INSTRUCTIONS BEFORE DISCHARGE	講義
	26	6 PATIENT DISCHARGE INSTRUCTIONS BEFORE DISCHARGE	講義
	27	6 PATIENT DISCHARGE INSTRUCTION ON DIET	講義
	28	6 PATIENT DISCHARGE INSTRUCTION ON DIET	講義
	29	6 PATIENT DISCHARGE APPOINTMENT AS AN OUTPATIENT	講義
	30	総括	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	保健体育	1	30	1	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>健康的な生活を創造するための運動の意義、運動生理学を学ぶ。</p> <p>チームプレーを通し協調性を養うとともに、自己の健康増進と体力向上を図る。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 日本人の健康体力と運動処方（DVD）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 運動の意義<理論>				講義
	2	1 運動の意義 ラジオ体操				実技
	3	2 健康体力・技術などの科学的知見の体得<理論>				講義
	4	2 健康体力・技術などの科学的知見の体得 ラジオ体操				実技
	5	2 健康体力・技術などの科学的知見の体得<理論>				講義
	6	2 健康体力・技術などの科学的知見の体得 社交ダンス				実技
	7	3 運動の実際 テニス 導入				講義
	8	3 運動の実際 テニス				実技
	9	3 運動の実際				実技
	10	3 運動の実際				実技
	11	3 運動の実際				実技
	12	3 運動の実際				実技
	13	3 運動の実際				実技
	14	3 運動の実際				実技
15	3 運動の実際				実技	

3 専門基礎分野 (22 単位) 526 時間

■ 【人体の構造と機能】 [3 単位] 90 時間

【目的】 人体の構造と機能、生体を構成する物質について理解し、専門分野の学習過程に活かすことができる。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	解剖生理学 I	1	30	1	前期	
<講義のねらい> 細胞と器官の構造について理解できる。						
<到達目標>						
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況						
<テキスト> 人体の構造と機能【1】解剖生理学（医学書院） 生化学【2】（医学書院）						
<参考図書> 解剖生理学ワークブック（医学書院）						
<講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1	細胞、組織：細胞の構造、遺伝子と遺伝、組織			講義
	2	2	生活リズムと恒常性：生体リズム、内部環境の恒常性			講義
	3	3	運動系：骨格、関節、骨格筋			講義
	4	4	神経系：神経細胞と神経組織、中枢神経系、末梢神経系			講義
	5	5	感覚器系：体性感覚、視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、内臓感覚			講義
	6	6	循環系：心臓、血管系、リンパ系			講義
	7	7	血液：血液の成分と機能、止血機構、血液型			講義
	8	8	体液：体液の構成、体液の調節			講義
	9	9	生体防除機構：非特異的生体防御機構、特異的生体防御(免疫系)			講義
	10	10	呼吸器系：気道、肺、呼吸			講義
	11	11	消化器系：咀嚼・嚥下、消化と吸収			講義
	12	12	代謝：栄養とエネルギー、物質代謝			講義
	13	13	泌尿器系：尿の生成、体液量の調節、排尿			講義
	14	14	体温調整：体温、体温の調節			講義
	15	15	内分泌系：ホルモンの種類、ホルモン分泌の調節、内分泌器官の構造とホルモンの機能			
15	16	生殖と老化：女性の生殖器系、男性の生殖器系、受精と発生、成長と老化			講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	解剖生理学Ⅱ	1	30	1	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>人体の各器官や組織の機能ならびに各器官や組織が連関して恒常性維持に寄与しているその機構を理解する。</p>						
<p><到達目標></p> <p>看護師として必要な人体の各臓器・器官や細胞の正常な生理機能、また各器官や臓器が連関して恒常性維持に寄与しているそのメカニズムについての基礎知識を身に付けていることを目標とする。</p>						
<p><評価> 終了試験で60点以上を合格とします</p>						
<p><テキスト> 人体の構造と機能【1】解剖生理学（医学書院）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法・担当
	1	細胞、組織：細胞の構造と細胞内小器官の機能を知る				講義
	2	恒常性維持機構：生体リズム、内部環境の恒常性維持機構を学ぶ				講義
	3	運動系：骨格、関節、骨格筋の機能を理解する				講義
	4	神経系：中枢神経系および末梢神経系の機能を理解する				講義
	5	感覚器系：視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚の機能を理解する				講義
	6	循環器系：心臓、血管系、リンパ系				講義
	7	血液：血液の成分と機能、止血機構、血液型				講義
	8	体液：体液の構成、体液の調節				講義
	9	神経系：中枢神経および末梢神経系の機能を理解する				講義
	10	感覚器系：視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚の機能を理解する				講義
	11	消化器系：咀嚼・嚥下、消化と吸収				講義
	12	代謝：栄養とエネルギー、物質代謝				講義
	13	泌尿器系：尿の生成、体液量の調節、排尿				講義
	14	体温調整：体温、体温の調節 内分泌系：ホルモンの種類、ホルモン分泌の調節、内分泌器官の構造とホルモンの機能				講義
15	生殖と老化：女性の生殖器系、男性の生殖器系、受精と発生、成長と老化				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	生化学（栄養学含む）	1	30	1	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>身体の正常な物質の働きについて理解する。それと共に、人体に必要な栄養について理解する。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 人体の構造と機能【2】生化学（医学書院） 栄養生化学（メヂカルフレンド社）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 生化学の基礎知識・細胞				講義
	2	2 糖質の構造と機能				講義
	3	3 脂質の構造と機能				講義
	4	4 タンパク質の構造と機能 核酸の構造と機能				講義
	5	5 ホルモンの構造と機能				講義
	6	6 酵素の構造と機能				講義
	7	7 ビタミン代謝のあらまし				講義
	8	8 糖質代謝、脂質代謝				講義
	9	9 タンパク代謝、核酸代謝				講義
	10	小括				講義
	11	10 栄養とは ・食物と栄養				講義
	12	・食物と栄養				講義
	13	・栄養所要量				講義
	14	・成長、生活と栄養				講義
15	・栄養療法 ほか				講義	

■ 【疾病の成り立ちと回復の促進】 [13 単位] 346 時間

【目的】 疾病・障害・治療について学び、看護学と系統的に関連づけることができる。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	微生物学	1	30	1	前期	
<講義のねらい> 微生物のもつ病原性について理解する。						
<到達目標>						
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況						
<テキスト> 疾病の成り立ちと回復の促進【4】微生物学（医学書院）						
<参考図書>						
<講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	第1章 微生物と微生物学、 第2章 細菌の性質				講義
	2	第3章 ウィルスの性質、 第4章 真菌の性質				講義
	3	第5章 感染と感染症、 第6章 感染に対する生体防御機構				講義
	4	第7章 滅菌と消毒、 第10章 感染症の現状と対策				講義
	5	第8章 感染症の検査と診断				講義
	6	第9章 感染症の治療				講義
	7	付章 寄生虫と衛生動物				講義
	8	第11章 病原細菌と細菌感染症①				講義
	9	第11章 病原細菌と細菌感染症②				講義
	10	第11章 病原細菌と細菌感染症③				講義
	11	第11章 病原細菌と細菌感染症④				講義
	12	第12章 病原ウイルスとウイルス感染症①				講義
	13	第12章 病原ウイルスとウイルス感染症②				講義
	14	第13章 病原真菌と真菌感染症				講義
15	総括				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学Ⅰ（総論）	1	30	1	後期	
<講義のねらい> 病気はどうして起り（病因）、我々の体にどうい変化（病変）を引き起こすか、という事の基本を理解する。						
<到達目標>						
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況						
<テキスト> 疾病の成り立ちと回復の促進【1】病理学						
<参考図書>						
<講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	医学の歴史、第1章 病理学で学ぶこと				講義
	2	第2章 細胞・組織の修復, 炎症-1				講義
	3	第2章 細胞・組織の修復, 炎症-2				講義
	4	第3章 免疫, 移植と再生医療-1				講義
	5	第3章 免疫, 移植と再生医療-2				講義
	6	第4章 感染症-1				講義
	7	第4章 感染症-2				講義
	8	第5章 循環障害-1				講義
	9	第5章 循環障害-2				講義
	10	第6章 代謝障害				講義
	11	第7章 老化と死				講義
	12	第8章 先天異常と遺伝性疾患				講義
	13	第9章 腫瘍-1				講義
	14	第9章 腫瘍-2				講義
15	第10章 生活習慣と環境因子による生体の障害				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学Ⅱ（呼吸器系、循環器系、血液系）	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>疾病の発生機序と病態生理および機能障害とその治療について理解する。【病態学各論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸、循環、血液・造血管機能障害 1 呼吸、循環、血液・造血管系のつくりと働きとその異常・障害 2 主な症状と病態生理 3 診断と検査 4 治療 						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 成人看護学【2】呼吸器（医学書院） 成人看護学【3】循環器（医学書院） 成人看護学【4】血液・造血管（医学書院）</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容			方法	
	1	1 呼吸器の構造			講義	
	2	2 呼吸器機能の破綻			講義	
	3	3 気道と肺の疾患、診断と治療（感染症・間質性肺疾患）			講義	
	4	4 気道の閉塞をきたす疾患（気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患）			講義	
	5	5 肺循環疾患（肺血栓塞栓症）、呼吸不全			講義	
	6	6 肺腫瘍、胸膜・縦隔・横隔膜の疾患			講義	
	7	1 循環器の構造			講義	
	8	2 循環器機能の破綻			講義	
	9	3 心臓の疾患、診断と治療 先天性心疾患			講義	
	10	4 虚血性心疾患、心筋症、心不全（右心不全、左心不全、心タンポナーデ）不整脈、心内膜炎と弁膜疾患			講義 講義	
	11	5 血管系の疾患、診断と治療 動脈硬化症、高血圧			講義	
	12	6 閉塞性動脈硬化症、大動脈瘤・大動脈解離 静脈瘤・静脈血栓症			講義 講義	
	13	1 血液の構造・機能とその破綻			講義	
	14	2 造血器の疾患、診断と治療 貧血、出血傾向と凝固・線溶系の異常、白血球減少症			講義	
15	造血器の腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）			講義		

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学Ⅲ（消化器系、腎・泌尿器系）	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>疾病の発生機序と病態生理および機能障害とその治療について理解する。【病態学各論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化吸収機能、腎・泌尿器障害 <ol style="list-style-type: none"> 1 消化吸収、腎・泌尿器系のつくりと働きとその異常・障害 2 主な症状と病態生理 3 診断と検査 4 治療 						
<到達目標>						
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況						
<p><テキスト> 成人看護学【5】消化器（医学書院）</p> <p>成人看護学【6】腎・泌尿器（医学書院）</p>						
<参考図書>						
<講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 消化器の構造				講義
	2	2 消化器機能の破綻				講義
	3	3 消化管の疾患、診断と治療 消化管の炎症と潰瘍、				講義
	4	消化管の腫瘍、イレウス、腹壁、腹膜、横隔膜の疾患				講義
	5	4 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患、診断と治療 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症、				講義
	6	肝硬変、肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍、肝不全				講義
	7	胆汁代謝・排泄の障害				講義
	8	5 排便の障害 便秘、下痢				講義
	9	1 腎・泌尿器・生殖器系の構造				講義
	10	2 腎・泌尿器・生殖器系機能の破綻				講義
	11	3 体液の調節障害、診断と治療 水と電解質の異常 酸塩基平衡の異常				講義
	12	4 腎・泌尿器の疾患、診断と治療 腎炎・慢性腎臓病、尿路の炎症、腎・尿路の腫瘍、尿路の通過障害、 排尿障害、腎不全				講義
13	5 腎・尿路・生殖器系の検査 腎・尿流動態検査、膀胱鏡検査、膀胱切除術、前立腺切除術、 ホルモン療法、排尿機能障害、 精巣腫瘍の程度の把握				講義	

科目内容	回数	講義内容	方法
	14	6 腎・尿路・生殖器系症状 勃起障害症状、性交障害症状、性感染症、男性生殖器の触診、 男性生殖器切除術	講義
	15	7 治療 勃起障害治療、性交障害治療、男性生殖器の疾患（前立腺腫瘍、 精巣腫瘍）	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学Ⅳ（脳神経系、摂食嚥下）	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>疾病の発生機序と病態生理および治療について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳神経機能障害 <ol style="list-style-type: none"> 1 脳・神経系のつくりと働きとその異常・障害 2 主な症状と病態生理 3 診断と検査 4 治療 ・言語、嚥下機能訓練 <p>※ 但し、自律神経系の機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自律神経失調に伴う身体変化<不定愁訴>、性・生殖器の疾患については、母性看護学方法論Ⅰに含める 						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 成人看護学【7】脳・神経（医学書院）</p> <p>嚥下ポケットマニュアル第3版（医歯薬出版）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 脳・神経の構造				講義
	2	2 脳・神経、筋系機能の破綻				講義
	3	3 中枢神経系の疾患、診断と治療 脳血管系の循環障害、頭蓋内圧亢進に伴う症状 神経変性パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症				講義
	4	脱髄性疾患（多発性硬化症）、認知症、アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症）、中枢神経系の感染症				講義
	5	頭部と脊椎の外傷、脊椎の外傷と脊髄損傷、機能的疾患（てんかん、頭痛）				講義
	6	二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患、腫瘍				講義
	7	4 末梢神経系の疾患、診断と治療 ギラン・バレー症候群、糖尿病性神経障害				講義
	8	圧迫性神経障害				講義
	9	1 摂食嚥下障害と摂食嚥下の解剖と生理				講義
	10					
	11	2 嚥下障害の原因疾患と誤嚥の分類				講義
	12					
	13	3 基礎訓練				講義
	14	4 摂食訓練				講義
15	4 摂食訓練				実技	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学Ⅴ (運動器系、リハビリ)	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>疾病の発生機序と病態生理および治療について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動機能障害 <ol style="list-style-type: none"> 1 運動器系のつくりと働きとその異常・障害 2 主な症状と病態生理 3 診断と検査 4 治療 ・運動機能訓練 						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 成人看護学【10】運動器 (医学書院) リハビリテーション看護 (医学書院)</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 筋・骨格系の構造				講義
	2	2 筋・骨格系の機能の破綻				講義
	3	3 筋・骨格系の疾患、診断と治療 1) 骨・関節・筋肉・神経、 筋接合部の疾患 骨折・脱臼・捻挫 骨粗鬆症				講義
	4	骨の腫瘍 変形性関節症 腰痛症 (椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症) 筋ジストロフィー 重症筋無力症				講義
	5	2) 活動や行動の制限による疾患 廃用症候群				講義
	6	1 リハビリテーションの特徴 ・リハビリテーションの特徴				講義
	7	・生活機能障害と日常生活活動 ・国際生活機能分類の概念				講義
	8	2 障害に対する受容と適応への援助 ・機能障害と日常生活動作のアセスメント				講義

科目 内容	回数	講義内容	方法
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃用症候群の予防 ・ 代償機能の獲得（活動促進に向けた ADL 支援、補助具の活用） 	講義
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム連携 ・ 居住環境のアセスメント 	講義
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用 ・ 心理的葛藤への対応 	講義
	12	3 社会参加への援助 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場調整 	講義
	13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会参加を促す要素と影響因子 	講義
	14	4 慢性疾患とリハビリ	講義
	15	総括	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学Ⅵ(内分泌・代謝系、運動・食事療法)	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>疾病の発生機序と病態生理および治療について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内分泌・代謝障害 <ol style="list-style-type: none"> 1 内分布・代謝系（甲状腺・副腎等）のつくりと働きとその異常・障害 2 主な症状と病態生理 3 診断と検査 4 治療 <p>食事療法、運動療法の実際について理解する</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 成人看護学【6】内分泌・代謝（医学書院）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 内分泌・代謝系の構造				講義
	2	2 内分泌・代謝の機能の破綻				講義
	3	3 栄養バランスの不均衡による疾患、診断と治療 メタボリックシンドローム				講義
	4	肥満、糖尿病、脂質異常症（高脂血症）、高尿酸血症と痛風				講義
	5	必須栄養素とエネルギーの不足による疾患、ビタミン欠乏症				講義
	6	4 内分泌系の疾患、診断と治療 下垂体の疾患、甲状腺の疾患、上皮小体<副甲状腺>の疾患				講義
	7	副腎の疾患、多発性内分泌腫瘍				講義
	8	1 食事療法	食生活の傾向と対策			講義
	9	自分に合った食事量				講義
	10	生活習慣で血管をまもる				講義
	11	職生活習慣病予防で大切なこと				講義
	12	2 運動療法（理論）	運動の考え方と進め方			講義
	13	疾病の予防・改善と運動				講義
	14	安全に運動を行うために				講義
15	運動療法の実際				実技	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学Ⅶ (アレルギー)	1	16	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>疾病の発生機序と病態生理および治療について理解する。</p> <p>・アレルギー・膠原病・感染症</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 身体機能防御の働きとその異常・障害 2 主な症状と病態生理 3 診断と検査 4 治療 						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 成人看護学【11】アレルギー・膠原病・感染症(医学書院)</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 免疫系の仕組みと働き				講義
	2	2 免疫系の破綻、自己免疫疾患の機序				講義
	3	3 アレルギー・膠原病・感染症、診断と治療				講義
	4	1) 膠原病 全身性エリテマトーデス、 関節リウマチ、シェーグレン症候群				講義
	5	2) アレルギー性疾患 花粉症<アレルギー性鼻炎>				講義
	6	蕁麻疹、接触皮膚炎				講義
	7	3) 免疫不全 ヒト免疫不全ウイルス				講義
8	4) 感染症				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学Ⅶ（感覚器系）	1	30	2	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>疾病の発生機序と病態生理および治療について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感覚機能障害 <ol style="list-style-type: none"> 1 感覚器系のつくりと働きとその異常・障害 2 主な症状と病態生理 3 診断と検査 4 治療 						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 成人看護学 12 耳鼻咽喉/歯・口腔（メジカルフレンド社） 成人看護学 12 皮膚（医学書院） 成人看護学 13 眼（医学書院）</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 感覚器の構造(耳鼻咽喉)				講義
	2	2 感覚器機能の破綻(耳鼻咽喉)				講義
	3	3 感覚機能の障害、診断と治療(耳鼻咽喉) 聴覚・平衡覚の障害				講義
	4	聴覚・平衡覚の障害				講義
	5	聴覚・平衡覚の障害				講義
	6	1 感覚器の構造(皮膚)				講義
	7	2 感覚器機能の破綻(皮膚)				講義
	8	3 感覚機能の障害、診断と治療(皮膚) ・皮膚の障害(湿疹、アトピー性皮膚炎)				講義
	9	・皮膚の障害(帯状疱疹・疥癬)				講義
	10	1 感覚器の構造(眼)				講義
	11	2 感覚器機能の破綻(眼)				講義
	12	3 感覚機能の障害、診断と治療(眼) 視覚の障害				講義
	13	視覚の障害				講義
	14	1 感覚器の構造(歯)				講義
15	2 感覚器機能の破綻(歯) 3 感覚機能の障害(歯)				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学区 (放射線・ME・検査)	1	30	2	前期	
<講義のねらい> 疾病の治療、検査、機器等と対応について理解する。						
<到達目標>						
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況						
<テキスト> 臨床放射線医学 (医学書院) 臨床検査 (医学書院)						
<参考図書> <講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 放射線療法とは(5) (1) 画像診断				講義
	2	(2) 放射線による治療				講義
	3	(2) 放射線による治療				講義
	4	(3) 放射線防護				講義
	5	(3) 放射線防護				講義
	6	3 医療機器に関する基礎知識(3) (1) ME機器とは (2) 医療機器の種類(人工呼吸器、心電計、除細動器				講義
	7	輸液ポンプ、低圧持続吸引器、ネブライザー等)				講義
	8	(3) 医療機器の使用目的と取り扱い上の注意				講義
	9	4 臨床検査(7) (1) 臨床検査とその役割 (2) 臨床検査の流れと看護師の役割 (3) 系統別臨床検査の進め方				講義
	10	(4) 主な臨床検査 化学検査、微生物検査				講義
	11	一般検査、病理検査				講義
	12	血液検査				講義
	13	免疫・血清検査				講義
	14	ホルモン検査				講義
15	生理機能検査				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	病態治療学Ⅹ (救急、手術、麻酔)	1	30	2	前期	
<講義のねらい> 救急時の対応、周手術期の治療・処置について学ぶ。						
<到達目標>						
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況						
<テキスト> 成人看護学【9】女性生殖器 (医学書院) 救急看護学 (医学書院) 臨床外科看護総論 (医学書院)						
<参考図書> <講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 救急医療 (3) (1) 救急患者の実態				講義
	2	(2) 主要病態に対する救急処置				講義
	3	(3) 主病病態に対する救急処置				講義
	4	2 基本的な救急処置 (4) ・気道の確保、人工呼吸、心マッサージ、自動体外式除細動器<AED>、 止血				講義
	5					
	6	・気道の確保、人工呼吸、心マッサージ、自動体外式除細動器<AED>、 止血				演習
	7					
	8	3 手術療法 (2) ・外科的治療の実際				講義
	9	・外科的治療の実際 (乳癌含む)				講義
	10	術中看護の実際 (3)				講義
	11	術中看護の実際				講義
	12	術中看護の実際				講義
	13	3 麻酔 (3) 麻酔法				講義
	14	呼吸管理				講義
15	体液管理 栄養管理				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
基礎分野	臨床薬理学	2	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>臨床薬理学は、薬物と生体の相互作用を探求する学問である。生体の仕組みや病気が発症する機序を理解して、疾病の治療における薬の臨床応用を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 疾病の成り立ちと回復の促進【3】薬理学（医学書院）</p>						
<p><参考図書> 疾病の回復を促進する薬（福永浩司、渡邊泰雄）放送大学教育振興会</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	薬理学とは何か 薬物とは何か 薬による病気の治療				講義
	2	薬理学の基礎知識 薬が作用するしくみ				講義
	3	薬物使用の有益性と危険性				講義
	4	薬と法律				講義
	5	消毒 輸液				講義
	6	抗感染症薬と抗がん薬の作用機序と副作用				講義
	7	免疫治療薬、抗炎症、抗アレルギー薬の作用機序				講義
	8	末梢神経系に作用する薬 交感神経作用薬と副交感神経作用の分類と作用機序				講義
	9	中枢神経系に作用する薬 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬の分類と作用機序				講義
	10	中枢神経系に作用する薬 抗精神病薬、抗うつ薬、抗てんかん薬の分類と作用機序				講義
	11	循環器系に作用する薬 抗高血圧薬 狭心症治療薬、抗不整脈薬 利尿薬 高脂血治療薬、抗血液凝固薬の分類と作用機序				講義
	12	呼吸器、消化器に作用する薬 気管支喘息治療薬 消化性潰瘍治療薬の分類と作用機序				講義
	13	泌尿器・生殖器作用薬の分類と作用機序				講義
	14	物質代謝に作用する薬 糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬の分類と作用機序				講義
15	物質代謝に作用する薬 下垂体ホルモン、骨粗鬆症治療薬の分類と作用機序				講義	

■ 【健康支援と社会保障制度】 [6 単位] 90 時間

【目的】 医療・保健・福祉制度について学び、各関係機関との役割と連携について理解する。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門基礎分野	公衆衛生学	2	30	2	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>健康についての基本的な考え方、統計指標の見方、健康問題について、公衆衛生的見方について理解する。</p>						
<p><到達目標></p>						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 健康支援と社会福祉制度2 公衆衛生（医学書院） 国民衛生の動向</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科 目 内 容	回数	講義内容				方法
	1	公衆衛生学概論				講義
	2	人口統計Ⅰ				講義
	3	人口統計Ⅱ				講義
	4	健康と保健統計				講義
	5	疫学				講義
	6	感染症とその予防				講義
	7	環境保健Ⅰ				講義
	8	環境保健Ⅱ				講義
	9	栄養・食品保健(食中毒)				講義
	10	地域保健・保健行政				講義
	11	精神保健				講義
	12	学校保健				講義
	13	産業保健Ⅰ				講義
	14	産業保健Ⅱ				講義
15	国際保健				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当	
専門基礎分野	社会福祉	2	30	2	前期		
<講義のねらい> 社会福祉の考え方と制度について理解する。							
<到達目標>							
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況							
<テキスト> ナーシンググラフィカ⑨社会福祉と社会保障（メディカ出版） 福祉小六法							
<参考図書>							
<講義計画>							
科目内容	回数	講義内容				方法	
	1	1 現代社会と社会福祉・社会保障				講義	
	2	1 現代社会と社会福祉・社会保障				講義	
	3	2 暮らしと社会福祉・社会保障				講義	
	4	3 社会福祉・社会保障の歴史				講義	
	5	4 社会福祉の担い手と役割				講義	
	6	5 福祉の実践、資源の活用				講義	
	7	・社会福祉の実践方法				講義	
	8	・社会福祉の活用方法				講義	
	9	6 ライフサイクルと社会福祉				講義	
	10	・子ども・家庭と福祉				講義	
	11	・障害者と福祉				講義	
	12	・高齢者と福祉				講義	
	13	・高齢者と福祉				講義	
	14	・生活保護				講義	
15	総括				講義		

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当	
専門基礎分野	医療と関係法規	2	30	2	後期		
<講義のねらい> 医療の概念や仕組みについて学び、医療・保健・福祉の中で、看護の果たす役割について理解する。							
<到達目標>							
<評価> 終了試験・課題レポート・出席状況							
<テキスト> 看護関係法令（医学書院） 精神保健福祉（医学書院）							
<参考図書>							
<講義計画>							
科目内容	回数	講義内容				方法	
	1	1 生命倫理 ・臓器移植 2 地域医療と医療者 （医療サービスの供給体制）				講義	
	2	3 医療機関と医療従事者の職能の機能と役割 4 医療法、医療関係資格法				講義	
	3	5 精神保健及び精神障害者福祉法				講義	
	4	6 保健師助産師看護師法				講義	
	5	・地域保健法				講義	
	6	・分野別保険法				講義	
	7	・感染症に関する法				講義	
	8	・環境衛生法				講義	
	9	・労働法				講義	
	10	・環境法				講義	
	11	7 薬務法				講義	
	12	麻薬・毒物などの法				講義	
	13	8 社会保険法 ・医療制度全般、国民健康保険 ・高齢者医療保険				講義	
	14	9 社会福祉 ・社会福祉法・生活保護法 ・障害者基本法 ・老人福祉法				講義	
15	・児童福祉法 ・児童虐待の防止				講義		

4 専門分野 (66 単位) 2199 時間

1 基礎看護学 [11 単位] 330 時間

【教育目的】

全人的存在としての人間を理解し、健康から病的状態に至る過程で果たす看護の役割と看護行為の基本となる知識・技術・態度を修得する。

【教育目標】

- 1 看護の基本となる概念と看護活動について理解する。
- 2 看護の基本技術を習得し、科学的根拠をもって対象に応じた援助ができる。
- 3 看護を展開するための問題解決能力を養うことができる。
- 4 看護研究の意義と基礎知識を学び、看護を探究する態度を養う。

※ 水準とは、看護基礎教育の充実に関する検討会報告書の卒業時到達度を示す。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	基礎看護学概論Ⅰ (看護学概論)	1	30	1	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>看護について学びを深め、看護の対象は「生活者としての人間」であることを理解する。また、看護の概念について理解する。看護の役割を理解し、看護の提供のしくみを学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護の歴史を理解し、看護の本質を理解する。 2 看護の主要概念（環境・人間・健康・生活）を理解する。 3 看護における倫理について理解する。 4 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する。 5 看護職に求められる姿勢について理解する。 						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況や講義中の態度を加味して、総合的に評価する。</p>						
<p><テキスト> 看護学概論 基礎看護学1（医学書院）</p>						
<p><参考図書>①「看護覚え書」フローレンス・ナイチンゲール著 湯楨ます訳（現代社）</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 看護の本質【看護】				講義
	2	1) 看護の歴史と変遷				
	3	2) 看護の定義 (1) 法の中の定義 (2) 職能団体による定義				講義
	4	(3) 看護理論家にみる看護の定義				講義
	5	* 看護の理論と実践				
	6					
	7	3) 看護の機能と役割 4) 看護の継続性と連携				
	8	2 統一体としての看護の対象【人間】 1) 人体の構造と機能、病態生理 2) ホメオスタシス 3) ストレスと適応【環境】				講義
9	4) ニーズからみた看護の対象 5) 発達し続ける存在としての看護の対象 6) 生活者としての看護の対象【生活】				講義	

回数	講義内容	方法
10	<p>3 健康と看護【健康】</p> <p>1) 健康の概念</p> <p>2) 健康の変遷</p> <p>3) 健康の段階</p> <p>4) 国民の健康に関する統計</p>	講義
11	<p>4 看護の専門性</p> <p>1) 看護職の規定</p> <p>2) 看護師のキャリアデザイン</p> <p>3) 看護師のキャリア</p>	講義
12	<p>5 看護における倫理</p> <p>1) 看護倫理とは</p> <p>2) 職業倫理として看護倫理</p> <p>3) 医療専門職の倫理規定</p> <p>4) 現代医療におけるさまざまな倫理的問題</p>	講義
13	<p>6 医療の提供者と提供のしくみ</p> <p>1) 看護と保健医療福祉の連携</p> <p>2) 医療施設と看護活動の場</p> <p>3) 保健・医療・福祉チームで共に働く主な職種</p> <p>4) 継続看護とチームアプローチ、ネットワークの構築と活用</p> <p>5) 地域包括ケアシステム</p>	講義
14 15	<p>7 ナイチンゲールの看護覚書</p>	<p>講義</p> <p>演習</p>
備考	<p>看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学びます。看護を志す初学者に、講義の中でたくさんの意見を交わし、自分の考えを伝えられるようになりましょう。看護職としての専門職になる素地づくりの機会です。</p>	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	基礎看護学概論Ⅱ (看護過程)	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>看護実践の基本となる問題解決能力と看護実践に伴う記録の基本的方法を修得する。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護の実践方法としての看護過程について理解する。 2 看護過程を展開する際の基盤となる考え方について理解する。 3 看護過程の構成要素と各段階の展開方法を理解する。 4 診療情報としての看護記録の意義を理解する 5 事例演習を通し、問題解決の思考による看護過程の展開方法を身につける。 						
<p><評価> 終了試験・出席状況</p>						
<p><テキスト> 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)</p> <p>看護がみえる vol.4 看護過程の展開 (メディックメディア)</p> <p>カルペニート看護診断ハンドブック</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護過程の定義 2 看護過程の意義 3 看護過程の構成要素と相互作用 4 看護過程とPOS 				講義
	2	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護過程の考え方と看護理論 2 ゴードンの機能的健康パターンと看護過程 				講義
	3	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護記録 <ul style="list-style-type: none"> (1) 看護記録の法的位置づけ (2) 看護記録の定義と目的 (3) 看護記録の管理方法 (4) 看護記録の構成とその内容 2 本校における看護過程展開様式－受持対象記録Ⅰ～Ⅴ 				講義
	4	<ol style="list-style-type: none"> 1 アセスメントの定義 2 アセスメントの過程 3 情報収集 (データ収集) の方法 				講義
	5	情報 (データ) 分析の方法				講義
	6	紙上事例を用いたアセスメント (情報収集と分析)				講義 演習

科目 内容	回数	講義内容	方法
	7	1 看護診断プロセス (1) 看護診断の定義 (2) 看護診断の構造 (3) 看護診断の種類 2 共同問題 (1) 共同問題とは (2) 看護診断と共同問題の違い (3) 共同問題の記述方法	講義
	8	紙上事例を用いた看護診断プロセス	講義 演習
	9	1 関連図の記載方法 2 紙上事例を用いた関連図の記載	講義 演習
	10	1 看護問題（看護診断）の記述方法 2 問題の優先順位の決定 3 看護目標の設定	講義
	11	1 看護計画の立案 2 紙上事例を用いた看護計画の立案	講義 演習
	12	1 看護計画の実施と評価 (1) 実施上の留意点 (2) 評価の視点 (3) 評価の記述方法 2 SOAPの記述方法	講義
	13	総合演習：紙上事例を用いた看護過程の展開	講義 演習
	14		
	15		

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	基礎看護学概論Ⅲ (看護研究)	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい> 看護研究</p> <p>看護研究の基本的な考え方、プロセスを学び、看護実践に密着した論文のまとめ方を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護研究における研究の意味を理解する。 2 看護研究のはじめ方を理解する。 3 研究における倫理的配慮を理解する。 4 研究デザインについて理解する。 5 データの収集について理解する。 6 データの分析について理解する。 7 研究計画書について理解する。 8 看護研究の成果をまとめ、伝える方法を理解する。 						
<p><評価> 終了試験・課題レポート・出席状況</p>						
<p><テキスト> 看護研究（医学書院）</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 看護研究とは (1) 研究とは何か (2) 看護研究とは				講義
	2	2 看護研究のはじめ方 (1) リサーチクエスチョンとは (2) リサーチクエスチョン決定までのプロセス				講義
	3	3 情報の探索と吟味 (1) 文献とその種類 (2) 文献レビューとその目的 (3) 文献検索の方法 (4) 文献の入手と整理 (5) 文献の読み方 (6) 文献レビューの記述				講義
	4	4 研究における倫理的配慮 (1) 研究における倫理的配慮 (2) 依頼書と同意書の書き方				講義
	5	5 研究デザイン (1) 研究デザインの選択 (2) 研究デザインの整理				講義

	回数	講義内容	方法
科目内容	6	(3) 質的研究デザイン (4) 量的研究デザイン	講義
	7	6 データの収集 (1) 標本の選択 (2) データの収集法 (3) インタビューデータの収集	講義
	8	(4) アンケートデータの収集 (5) 観察データの収集 (6) 生理学的測定データ	講義
	9	7 データの分析 (1) 質的データ分析	講義
	10	(2) 量的データ分析	講義
	11	8 研究計画書の作成 (1) 研究計画書とは (2) 研究計画書の書式と書き方	講義 演習
	12	9 研究を伝える (1) 研究成果をまとめる (2) 研究成果を伝える	講義
	13	10 事例研究の進め方	講義
	14	11 調査研究 (1) 実態調査研究の進め方 (2) 相関研究の進め方	講義
	15	12 文献研究・実践報告の進め方 (1) 文献研究 (2) 実践研究	講義
備考		看護の実践・教育・管理など直接・間接的に看護ケアに影響を与える事象について行う研究のことを看護研究といいます。看護職において看護のはたらきかけを抽出・定義・説明すること、効果を検証することが役割です。そのために看護研究を実践し「研究力」を身に付けることが重要です。	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当																														
専門分野	共通基本技術Ⅰ (技術の概念、コミュニケーション、感染)	1	30	1	前期																															
<p><講義のねらい></p> <p>日常生活援助の原理原則を理解し、対象に適切な援助を提供するための基礎的な方法を理解することをねらいとする。</p>																																				
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎看護学における技術の位置づけと展開の概略を理解する。 2 人間関係の基礎としての信頼関係を結ぶためのコミュニケーションの基本を習得する。 3 感染予防の意義を理解し、手洗いの重要性を認識し実施できる。 4 原理・原則に沿った基本的な滅菌操作・包帯法が実施できる。 																																				
<p><評価> 課題レポート、小テスト、終了試験</p>																																				
<p><テキスト> 基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)</p>																																				
<p><参考図書></p> <p>はじめての看護実習 基礎からステップアップ 看護コミュニケーション (ヘルス出版) 看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング (医学書院) 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ (メヂカルフレンド社)</p>																																				
<p><講義計画></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>講義内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1 技術の概念</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1 コミュニケーションの意義と目的 2 コミュニケーションの構成要素と成立過程</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1 関係構築のためのコミュニケーションの基本</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1 効果的なコミュニケーションの実際</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1 コミュニケーション障害への対応</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1 感染の成立と予防 感染経路、院内感染、菌交代現象</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2 標準予防策と感染経路別予防策 ・スタンダードプリコーション ・手袋とガウンの装着</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2 標準予防策と感染経路別予防策 ・接触予防策・飛沫予防策・空気予防策 ・隔離に必要な装備および操作</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>3 洗浄・消毒・滅菌法、無菌操作 ・滅菌と消毒、消毒薬の種類・特徴 ・無菌操作 (滅菌物の取り扱い)</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>							回数	講義内容	方法	1	1 技術の概念	講義	2	1 コミュニケーションの意義と目的 2 コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義	3	1 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義	4	1 効果的なコミュニケーションの実際	講義	5	1 コミュニケーション障害への対応	演習	6	1 感染の成立と予防 感染経路、院内感染、菌交代現象	講義	7	2 標準予防策と感染経路別予防策 ・スタンダードプリコーション ・手袋とガウンの装着	講義	8	2 標準予防策と感染経路別予防策 ・接触予防策・飛沫予防策・空気予防策 ・隔離に必要な装備および操作	講義	9	3 洗浄・消毒・滅菌法、無菌操作 ・滅菌と消毒、消毒薬の種類・特徴 ・無菌操作 (滅菌物の取り扱い)	講義
回数	講義内容	方法																																		
1	1 技術の概念	講義																																		
2	1 コミュニケーションの意義と目的 2 コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義																																		
3	1 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義																																		
4	1 効果的なコミュニケーションの実際	講義																																		
5	1 コミュニケーション障害への対応	演習																																		
6	1 感染の成立と予防 感染経路、院内感染、菌交代現象	講義																																		
7	2 標準予防策と感染経路別予防策 ・スタンダードプリコーション ・手袋とガウンの装着	講義																																		
8	2 標準予防策と感染経路別予防策 ・接触予防策・飛沫予防策・空気予防策 ・隔離に必要な装備および操作	講義																																		
9	3 洗浄・消毒・滅菌法、無菌操作 ・滅菌と消毒、消毒薬の種類・特徴 ・無菌操作 (滅菌物の取り扱い)	講義																																		
科目内容																																				

科目 内容	回数	講義内容	方法
	10	4 感染性廃棄物の取り扱い 5 感染拡大の防止の対策	講義
	11	・手洗い ・防護用具の着脱（マスク、手袋、ガウン等） ・使用した物品の感染防止の取り扱い	演習
	12		
	13	滅菌物の取り扱い、ガーゼ交換	演習
	14	6 基本的包帯法	講義
	15	包帯法の実際	演習

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	共通基本技術Ⅱ (バイタルサイン・フィジカルアセスメント)	1	30	1	前期	
<p><講義のねらい> 対象の身体的健康状態を観察し、スクリーニングの基礎的方法を習得する。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護の一般的状態の変化に気づくことができる。 2 症状の系統的な観察とアセスメントの方法がわかる。 3 正確なバイタルサインの測定と身体計測ができる。 						
<p><評価> 終了試験、出席状況、演習状況</p>						
<p><テキスト> 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) フィジカルアセスメントガイドブック (医学書院)</p>						
<p><参考図書> 解剖生理学 (医学書院) 看護技術プラクティス (学研)</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	ヘルスアセスメントの意義と目的、環境調整				講義
	2	観察方法 (問診 (インタビュー)、技法 (視診・触診・聴診・打診)				講義
	3	バイタルサイン測定 (体温、循環)				講義
	4	バイタルサイン測定 (呼吸、意識レベル)				講義
	5	バイタルサイン測定、記録・報告の実際				講義・演習
	6	呼吸器系のフィジカルアセスメント				講義
	7	循環器系のフィジカルアセスメント				講義
	8	消化器系のフィジカルアセスメント				講義
	9	脳・中枢神経系のフィジカルアセスメント				講義
	10	感覚系のフィジカルアセスメント				講義
	11	運動器系のフィジカルアセスメント				講義
	12	身体計測の目的と意義、計測 (身長、体重、頭位、胸囲、腹囲)				講義・演習
	13	バイタルサイン技術試験				技術試験
	14					
15	安全安楽の確保、プライバシーの保護				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	日常生活援助技術Ⅰ (環境、活動と休息)	1	30	1	前期	
<p><講義のねらい> 日常生活の場と生活動作を整える技術を習得する。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 療養における患者の快適な生活環境の調整ができる。 日常生活における活動と休息の意義が述べられる。 休息・睡眠の基本的援助ができる。 生活行動の基盤となる姿勢、体位、移動の援助ができる。 						
<p><評価> 終了試験、授業態度、提出物、出席状況</p>						
<p><テキスト> 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ(医学書院)、看護技術プラクティス(学研)</p>						
<p><参考図書> 看護学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術(医学書院) 看護が見える Vol.1 基礎看護技術(メディックメディア)</p>						
<p><講義計画></p>						
科目 内容	回数	講義内容				方法
	1	1 環境の調整に必要な知識 (1) 環境調整・整備する意義 (2) 環境条件				講義
	2	1 環境の調整に必要な知識 (3) 環境の実際				演習
	3	2 病床環境を整える技術 (1) ベッドメイキング (2) 環境整備、リネン交換				講義
	4	3 活動と休息の援助 (1) 活動・運動の意義・影響する要因 (2) 活動・運動のアセスメント (3) 床上運動・活動の援助 (4) 療養生活におけるレクリエーション				講義
	5	3 活動と休息の援助 (1) 休息・睡眠の意義・影響する要因 (2) 休息・睡眠のアセスメント (3) 休息・睡眠を促す援助				講義
	6	4 安楽確保の援助 (1) 安楽な姿勢・体位の特徴 (2) ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 (3) ケアを通じてもたらされる安楽				講義
	7 8	5 ベッドメイキングの技術演習				演習

科目内容	回数	講義内容	方法
	9	6 体位変換、リネン交換、体位の保持	講義
	10	6 体位変換、リネン交換、体位の保持の技術演習 (1) 体位変換	演習
	11	(2) リネン交換 (3) 体位の保持	
	12	ベッドメイキング技術試験	技術試験
	13	7 移動、移乗・移送の援助 (1) 車椅子への移乗、車椅子での移動・移送 (2) ストレッチャーへの移乗 (3) ストレッチャーでの移動・移送 (4) 歩行時の援助 (5) ヒヤリハットについて	講義
	14	7 移動、移乗・移送の援助の技術演習 (1) 車椅子への移乗、車椅子での移動・移送 (2) ストレッチャーへの移乗	演習
	15	(3) ストレッチャーでの移動・移送 (4) 歩行時の援助 (5) ヒヤリハットについて	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	日常生活援助技術Ⅱ (食と排泄)	1	30	1	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>人間にとって生きるために必要な食事・栄養・排泄の意味を理解し、対象が生活を送るために必要な基礎知識、援助技術を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <p>食と排泄の意義と食と排泄に関連する要因を理解し、援助法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食事と栄養のアセスメントができる。 2 嚥下障害のない対象に食事介助ができる。 3 排泄の基本的援助および排泄障害のある人への援助ができる。 						
<p><評価> 授業態度、課題提出物、技術試験、終了試験</p>						
<p><テキスト> 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)、看護技術プラクティス (学研)</p>						
<p><参考図書> 看護学生のためのヒヤリハットにまなぶ看護技術 (医学書院)</p> <p>講義中に適宜資料を配布</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	<p>1 排泄に必要な知識</p> <p>(1) 自然排尿および自然排便の基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> ①排泄の意義 ②排泄のメカニズム <p>(排尿・排便)</p>				講義
	2	<p>(2) 患者の状態に応じた援助の決定の為のアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> ①排尿・排便のアセスメント ②移動動作のアセスメント ③心理・社会的状態のアセスメント 				講義
	3	<p>(3) 自然排尿および自然排便の介助の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> ①トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助 				講義
	4	<ol style="list-style-type: none"> ②床上での排泄の援助 ③おむつによる排泄援助 				演習
	5	<p>(4) 排便を促す援助</p> <ol style="list-style-type: none"> ①排便を促す援助の基礎知識 <p>(排便のアセスメント、便秘改善のケア)</p>				講義
	6	<ol style="list-style-type: none"> ②浣腸 (グリセリン浣腸) ③摘便 				演習 デモ
	7	<p>(5) 自然な排泄が困難な人への援助</p> <ol style="list-style-type: none"> ①一時的導尿 				講義
8	<ol style="list-style-type: none"> ②持続的導尿 ③膀胱留置カテーテルの管理 				演習	

科目 内容	9	<p>1 食事援助の基礎知識</p> <p>(1) 栄養と食事に必要な知識</p> <p>①食事と栄養の意義、栄養状態のアセスメント</p> <p>②水分・電解質バランスのアセスメント</p>	講義
	10	<p>③食欲のアセスメント</p> <p>④摂食・嚥下能力のアセスメント</p> <p>⑤摂食行動のアセスメント</p> <p>(2) 医療施設で提供される食事の種類と形態</p> <p>①食事の種別と種類、特別食、食形態</p>	講義
	11 12	<p>(3) 食事摂取の介助</p> <p>①食事援助の目的と適応</p> <p>②食事介助の方法、食事姿勢</p> <p>(4) 食事介助の実際</p> <p>嚥下障害のない患者の状態に合わせた食事介助</p>	講義 演習
	13	<p>(5) 摂食・嚥下訓練</p> <p>①目的と適応・禁忌</p> <p>②援助の実際</p> <p>(6) 非経口的栄養摂取の援助</p> <p>①経管栄養法</p> <p>②経静脈栄養法経管栄養法</p>	講義 演習
	14	<p>③経管栄養チューブの挿入・確認</p> <p>④流動食の注入</p>	演習
	15	グリセリン浣腸	技術試験

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	日常生活援助技術Ⅲ (清潔)	1	30	1	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>1 清潔の意義を理解し、身体各部位の清潔への援助方法を習得する。</p> <p>2 衣生活の意義を理解し、衣生活の援助方法を習得する。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 身体各部の清潔のアセスメントと清潔援助ができる。</p> <p>2 衣交換のアセスメントと援助ができる。</p>						
<p><評価> 授業態度、課題提出、技術試験、終了試験</p>						
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)</p>						
<p><参考図書></p> <p>看護技術プラクティス (Gakken)、看護学生のためのヒヤリハットにまなぶ看護技術 (医学書院)</p> <p>技術が見える基礎看護技術 (MEDIC MEDIA)</p>						
<p><講義計画></p>						
科目 内容	回数	講義内容				方法
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔の意義・清潔行動に影響を与える因子とアセスメント ・全身の清潔保持の種類と特徴 ・衣生活の意義 				講義
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴・シャワー浴の方法・留意事項 ・全身清拭の方法・留意事項 				講義
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・臥床患者の寝衣交換 				演習
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・臥床患者の全身清拭 				演習
	5					
	6					
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・手・足浴の目的・方法・留意事項 ・手・足浴の実施 				演習
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・頭皮・頭髮の構造と清潔の目的 ・頭皮・頭髮の清潔保持のためのアセスメントと実施時の留意事項 ・ケリーパッド・洗髪車を用いた洗髪 				講義・演習
	9					
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・陰部の構造と陰部の清潔の目的・アセスメント・方法・留意事項 ・整容の意義と方法 ・口腔内の構造と口腔ケアの目的・アセスメント・方法・留意事項 				講義
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・臥床患者の陰部洗浄 				演習
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴・シャワー浴の援助 				演習
	13					
	14	技術試験				実技試験
15	<ul style="list-style-type: none"> ・臥床患者の口腔ケア ・総括 				演習・講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	与薬と検査に伴う看護技術	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を修得する。 2 検体の科学的性質を理解し、正確で安全・安楽な検査の技術を身に付ける。 						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 与薬と検査の意義と役割を理解する。 2 検査の種類と実施時の留意点がわかる。 3 薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法や検査実施時の介助方法、検体の取り扱い方法を身につける。 4 安全に与薬を行うシステムのあり方について学ぶ。 						
<p><評価> 終了試験、出席状況、演習状況</p>						
<p><参考図書> 系統別看護学講座基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護技術プラクティス（学研）</p>						
<p><参考図書> 看護学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術（医学書院）</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 薬物療法の意義、薬物療法の基礎知識 （1）薬に関連した法令、薬物の種類 （2）薬物動態 （3）薬理作用とその影響因子 2 薬物療法における看護師の役割 （1）看護師の役割と法的役割 （2）薬物療法における看護師と多職種との関連				講義
	2	3 検査の意義、検査における看護師の役割 ・身体侵襲を伴う検査の目的・方法・看護 ・検査前・中・後の観察 ・検査後の安静の保持				講義
	3	4 検査の種類と実施時の注意点 （1）検査方法と検査物の採取（尿、便、喀痰、静脈血採血など）				講義
	4	（2）採血技術演習				演習
	5	（3）医療廃棄物の取り扱い				
	6	静脈採血技術試験				技術試験
	7	5 薬物療法における援助過程と与薬の技術				講義
	8	（1）一般的な与薬の技術 （2）経口薬、経皮・外用薬、直腸内与薬などの方法と前後の観察				
9	（3）注射法による薬物療法（皮内注射、皮下注射、筋肉注射） 目的・種類・使用物品・留意点・注射部位・危険性・種別援助					

科目内容	回数	講義内容	方法
	10	(4) 皮下注射、筋肉注射 技術演習	演習
	11		
	12	皮下注射、筋肉注射技術試験	技術試験
	13	(5) 輸液療法を受ける患者の看護	講義 演習
	14	(6) 輸液療法技術演習 (点滴、輸液ポンプの操作、解剖的理解、無菌的 操作、安全確認と事故防止 6 薬物療法における看護の質保証と安全管理 ・リスクの大きい薬剤、対象に対する事故防止対策、医療従事者自身 への事故防止対策	
	15	7 輸血の看護 ・輸血の目的、種類、副作用、方法 ・輸血前・中・後の観察と看護	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	臨床看護学 I (回復期・慢性期・終末期の看護)	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>1 ライフサイクルから捉えた対象の健康上のニーズを学ぶ。</p> <p>2 各健康期の特徴と看護の役割が理解できる。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 ライフサイクルから捉えた対象の健康上のニーズと看護の役割がわかる。</p> <p>2 病期（健康期・急性期・慢性期・回復期・終末期）の特徴と看護の役割を学ぶ。</p>						
<p><評価> 授業態度 提出物 終了試験</p>						
<p><テキスト> 系統別看護学講座専門分野 臨床看護総論（医学書院） 系統別看護学講座専門分野 成人看護学〔1〕 成人看護学総論（医学書院） 系統別看護学講座別巻 緩和ケア（医学書院） ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント（メディカ出版）</p>						
<p><参考図書> 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護技術 II（医学書院） 看護技術プラクティス（学研）</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	I 各健康期の特徴と看護 ・病期（健康期・急性期・慢性期・回復期・終末期）の定義 ・病期ごとの看護の特徴 II ライフサイクルから捉えた対象の健康上のニーズ 1 健康期の特徴 ・特徴と健康上のニーズ（子ども、成人、高齢者） ・家族の健康上のニーズ				講義
	2	2 急性期の特徴と看護の役割 ・健康の危機状況とは ・生命の危機状態にある患者の捉え方				講義
	3	III 回復期 1 ライフサイクルにおける回復期の特徴と看護の役割 ・一般状態・機能障害・日常生活動作のアセスメント ・合併症の予防と ADL 支援 ・社会資源の活用と社会参加を促す看護 ・回復を支えるチームアプローチ				講義
	4	2 安静が必要な対象の看護 ・安静の必要性 ・安静時の身体的援助・ニード充足の援助、体動制限の苦痛の緩和の方法				講義

	回数	講義内容	方法
科目 内 容	5	IV 慢性期 1 慢性期の定義 2 ライフサイクルにおける慢性期の特徴と看護の役割	講義
	6	3 セルフマネジメントの構成要素と諸理論 ・セルフケア、セルフマネジメントとは ・セルフマネジメントと関係する諸理論 (位置関係モデル、コンプライアンスとアドヒアランス、コンコーダンス、健康信念モデル、エンパワメントモデル、自己効力理論)	講義
	7		
	8		
	9	V 終末期 1 ライフサイクルにおける終末期の特徴と看護の役割 ・全人的苦痛（身体的・心理的・社会的・霊的苦痛） ・エンド・オブ・ライフケア	講義
	10	2 終末期を取り巻く現状 3 家族のケア ・緩和ケア時の家族の理解 ・遺族ケア・グリーフケア アドバンスケアプランニング（ACP）	講義
	11	4 終末期における看護倫理と意思決定支援 ・死の尊厳・態度、手続き	講義
	12	5 看取りの時のケアと死後の処置 ・死が近づいたときの身体的・心理的变化 ・症状マネジメントとケアの視点 ・死後（臨終後）の身体的変化、判定・脳死 ・看取り、死後の処置	講義
	13		
	14		
	15	VI 事例展開 1 セルフマネジメントを推進する看護展開 ・指導技術 ・セルフケアマネジメントを目指す看護の実際 ・糖尿病を持つ対象のセルフマネジメント支援	演習 講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	臨床看護学Ⅱ (急性期の看護)	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期における看護の特徴・看護の実際を理解できる。 臨床で求められる症状・治療・検査に関連した臨床看護技術を学ぶ。 生命活動を支える呼吸・循環・体温管理看護技術の基本を身につける。 						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 健康危機状況にある対象のアセスメントができる。 健康危機状況にある対象の生命活動を支える呼吸・循環・体温管理の基本技術を身につける。 救急時に必要な救急蘇生法に関する基礎知識と救命処置の方法がわかる。 創傷の治癒過程に応じた創傷・ドレーン管理の技術を身につける。 						
<p><評価> 授業態度 提出物 終了試験</p>						
<p><テキスト> 臨床外科看護総論(医学書院) 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) クリティカルケア看護学(医学書院) 救急看護学(医学書院) 周手術期看護(学研)</p>						
<p><参考図書> 講義中に適宜資料を配布</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	急性期の特徴と看護の役割 生体侵襲理論				講義
	2	呼吸機能障害に関連する看護技術 体温調節に関連する看護技術				講義
	3	呼吸機能障害に関連する看護技術 ・酸素吸入療法・気管内加湿法・口腔鼻腔吸引 体温調節に関連する看護技術 - 温罨法・冷罨法				講義・演習
	4					
	5	救急患者の観察とアセスメント 外傷への対応				講義
6	呼吸管理の必要な対象の看護 ・呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム ・呼吸機能障害に関連するアセスメント ・呼吸機能障害に関連する看護実践・人工呼吸器による呼吸管理				講義	

	回数	講義内容	方法
科目内容	7	栄養・代謝管理が必要な対象の看護と実際 ・ 栄養障害や代謝障害に関連する症状のメカニズム ・ 栄養障害や代謝障害に関連するアセスメント ・ 栄養障害や代謝障害に関連する看護実践	講義
	8	循環機能障害のある対象の看護 ・ 循環機能障害の病態生理 ・ 循環機能障害のアセスメント ・ 循環機能障害のケア	講義
	9	体温異常への対応 ・ 体温の異常 ・ 体温管理の実際 感染症への対応	講義
	10	ライフサイクルから捉えた周手術看護(術中看護:病態治療学Ⅹ) (1)術前看護 ・ 術前アセスメント	講義
	11	・ 術前の援助と術前処置 ・ 術前日・当日の看護	
	12	(2)術後看護 術後の回復を促進するための援助 ・ 術後のアセスメント ・ 術後合併症の予防	
	13	・ 創傷の治癒過程 ・ ドレナージの目的と管理	講義
	14	術前看護:術前訓練、術前処置 弾性ストッキングの計測と装着	演習
	15	術後看護:術後の観察 早期離床の援助の実際	

【教育目的】

地域における療養者や療養者を取り巻く家族を理解し、在宅における看護の基礎を習得する。

【教育目標】

- 1 地域における看護の責任と役割を理解する。
- 2 地域包括ケアシステムと多機関・多職種連携について理解する。
- 3 在宅で生活する療養者およびその家族を理解する。
- 4 在宅看護に必要な技術を習得する。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	地域・在宅看護概論	1	16	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>地域における看護体制と在宅看護の役割について理解することをねらいとする。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域看護の概念について理解し、在宅ケアの動向と在宅看護の必要性を理解する。 2 地域・在宅看護を受ける対象とその家族の特徴を理解する。 3 地域・在宅看護の活動の場と役割について理解する。 						
<p><評価> 提出物、授業態度、出席状況、終了試験</p>						
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院</p>						
<p><参考図書></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 河野あゆみ編：地域・在宅看護論（メヂカルフレンド社、2021年） (2) 臺 有佳他：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版 2022年） (3) 杉本正子他：在宅看護論－実践をことばに－（廣川出版、2020年） (4) 伊藤雅治他編：国民衛生の動向・厚生指標 増刊 						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	<p>人々の暮らしと地域・在宅看護</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) カリキュラムにおける地域・在宅看護論の位置づけ (2) 地域・在宅看護のイメージをつかむ (3) 暮らしの理解 (4) 暮らしと健康の関係 (5) 地域・在宅看護の役割 				講義
	2	<p>暮らしの基盤としての地域</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域の定義 (2) 地域の多様性 (3) 地域を理解するための考え方 (4) 地域包括システムと地域共生社会 (5) 地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護の位置づけ 				講義
	3 4	<p>地域・在宅看護の対象</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 個人の特徴 ライフステージ・疾患・障害の程度、療養状態別 (2) 家族の特徴 家族の定義、家族の機能、介護者の状況 (3) 地域に暮らす生活者として理解 				講義
	5 6	<ol style="list-style-type: none"> (1) 地域看護の定義と特徴（対象・看護内容・提供場所・提供者） (2) 地域看護を構成する分野 (3) 公衆衛生看護の定義と特徴 (4) 小児から高齢者に対する公衆衛生看護 				講義

	回数	講義内容	方法
	7 8	訪問看護の役割と機能 (1) 在宅看護における訪問看護の位置づけ (2) 訪問看護を実施する機関とその特徴 (3) 訪問看護サービスの仕組みと提供 (4) 訪問看護の役割と機能	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当																				
専門分野	在宅ケアマネジメント論	1	16	2	前期																					
<p><講義のねらい></p> <p>在宅療養を支える社会資源と活用における看護師の役割を理解し、地域包括ケアシステムについて考えることをねらいとする。</p>																										
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会資源の概念と分類が理解できる。 2 在宅療養に関わる社会保障制度が理解できる。 3 在宅療養者のケアマネジメントのプロセスを理解できる。 4 看護師と他機関・多職種との連携について理解できる。 																										
<p><評価> 提出物、授業態度、出席状況、終了試験</p>																										
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践（医学書院）</p>																										
<p><参考図書></p> <p>(1) 臺 有佳他：ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版、2022年） (2) 島田 美喜他：ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障（メディカ出版）</p>																										
<p><講義計画></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>講義内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">科目内容</td> <td>在宅看護における連携 (1) 在宅看護における連携の必要性 (2) 看護職との連携（継続看護）</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>(3) 多職種との連携（調整・協働） (4) 入退院調整・入退院支援</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>在宅療養に関わる法令・制度 (1) 地域包括ケアと在宅看護 (2) 在宅看護に関わる社会保障制度 ・医療保険制度</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>・介護保険制度</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>・障害者自立支援システム ・関係機関と職種の役割</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>活用できる社会支援システムの検討（地域包括ケアシステム） (1) 社会資源とは (2) ケアマネジメント技術</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>(3) 介護保険制度・障害者総合支援システムにおけるケアマネジメント</td> <td>演習（地域包括ケアシステム図の作成）</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							回数	講義内容	方法	科目内容	在宅看護における連携 (1) 在宅看護における連携の必要性 (2) 看護職との連携（継続看護）	講義	(3) 多職種との連携（調整・協働） (4) 入退院調整・入退院支援	講義	在宅療養に関わる法令・制度 (1) 地域包括ケアと在宅看護 (2) 在宅看護に関わる社会保障制度 ・医療保険制度	講義	・介護保険制度	講義	・障害者自立支援システム ・関係機関と職種の役割	講義	活用できる社会支援システムの検討（地域包括ケアシステム） (1) 社会資源とは (2) ケアマネジメント技術	講義	(3) 介護保険制度・障害者総合支援システムにおけるケアマネジメント	演習（地域包括ケアシステム図の作成）		
回数	講義内容	方法																								
科目内容	在宅看護における連携 (1) 在宅看護における連携の必要性 (2) 看護職との連携（継続看護）	講義																								
	(3) 多職種との連携（調整・協働） (4) 入退院調整・入退院支援	講義																								
	在宅療養に関わる法令・制度 (1) 地域包括ケアと在宅看護 (2) 在宅看護に関わる社会保障制度 ・医療保険制度	講義																								
	・介護保険制度	講義																								
	・障害者自立支援システム ・関係機関と職種の役割	講義																								
	活用できる社会支援システムの検討（地域包括ケアシステム） (1) 社会資源とは (2) ケアマネジメント技術	講義																								
	(3) 介護保険制度・障害者総合支援システムにおけるケアマネジメント	演習（地域包括ケアシステム図の作成）																								

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	地域・在宅看護方法論 I（在宅医療）	1	16	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>在宅における医療について理解でき、看護の役割について考えることをねらいとする。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 在宅において医療管理を必要とする対象（疾患・症状・経過）を理解する。</p> <p>2 医療ケアの原理原則が理解できる。</p> <p>3 在宅医療における看護の役割を理解する。</p>						
<p><評価> 提出物、授業態度、出席状況、終了試験</p>						
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践（医学書院） 角田直枝編：よくわかる在宅看護 改訂第3版（Gakken、2020年）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目 内容	回数	講義内容				方法
	1	在宅医療について （1）在宅医療の目的と意義 （2）訪問診療と往診の違い （3）在宅医療の現状と今後 （4）在宅療養支援医療機関と多職種連携 （5）資材の調達と管理				講義
	2	在宅療養における疾患と医療（疾患別） （1）神経難病（多発性硬化症、脊髄小脳変性症） 病態と在宅における治療・処置				講義
	3	（2）慢性閉塞性肺疾患 病態と在宅における治療・処置				講義
	4	在宅中心静脈栄養法（治療・処置別） （1）対象の特徴 （2）栄養剤の注入方法 （3）栄養評価 （4）合併症の予防 （5）在宅における安全管理と援助				講義
5	在宅CAPD管理（治療・処置別） （1）対象の特徴 （2）CAPD管理のアセスメント （3）援助の実際 （4）療養者・家族への支援 （5）社会資源の活用				講義	

回数	講義内容	方法
5	在宅ターミナルケア（経過別） （１）ターミナルケアの基本 （２）症状マネジメント （３）生活環境の整備 （４）チームの連携 （５）家族へのケア	講義
6	在宅人工呼吸療法（非侵襲的換気療法含む）（治療・処置別） （１）対象の特徴 （２）人工呼吸器の原理・構造 （３）気道浄化のケア	講義
7	（４）合併症の予防 （５）在宅における安全管理と援助	講義
8	在宅療養の実際 在宅療養者による在宅療養の実際	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当																								
専門分野	地域・在宅看護方法論 Ⅱ（在宅看護の共通基本技術）	1	30	2	前期																									
<p><講義のねらい></p> <p>在宅看護における訪問看護の基本技術と日常生活援助技術を習得する。</p>																														
<p><到達目標></p> <p>1 訪問看護の基本技術について理解し、実践できる。</p> <p>2 在宅における日常生活援助技術の特徴を理解し、実践できる。</p>																														
<p><評価> 提出物、授業態度、出席状況、終了試験</p>																														
<p><テキスト> 系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院 角田直枝編：よくわかる在宅看護 改訂第3版（Gakken、2020年）</p>																														
<p><参考図書></p> <p>(1) 押川真喜子監：写真でわかる訪問看護（インターメディカ、2007年）</p> <p>(2) 岡崎美智子他：根拠がわかる在宅看護技術（メヂカルフレンド社、2021年）</p> <p>(3) 臺 有佳他：ナーシンググラフィカ2 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術（メディカ出版 2022年）</p>																														
<p><講義計画></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>講義内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>訪問技術の基本と実際 (1) 訪問技術の基本 (2) 訪問看護の心構えと基本姿勢</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>訪問看護の実際</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(1) 訪問前の準備 (2) 訪問時の一般的注意事項 (3) 訪問終了後の整理</td> <td>シミュレーション (初回訪問)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>コミュニケーション (1) コミュニケーションの基本 (2) 信頼関係を築くためのコミュニケーションのポイント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>フィジカルアセスメント (1) 在宅におけるフィジカルアセスメントの基本 (2) 症状別フィジカルアセスメント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>環境整備 (1) 在宅療養環境の基本 (2) 療養環境が引き起こす障害とその予防 (3) 住居環境のアセスメント (4) 環境整備に活用できる社会資源</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>生活リハビリテーション (1) 生活リハビリテーションの基本 (2) 障害や状態に応じた生活リハビリテーション (3) 在宅移行に向けての環境整備</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>							回数	講義内容	方法	1	訪問技術の基本と実際 (1) 訪問技術の基本 (2) 訪問看護の心構えと基本姿勢	講義	2	訪問看護の実際	講義	3	(1) 訪問前の準備 (2) 訪問時の一般的注意事項 (3) 訪問終了後の整理	シミュレーション (初回訪問)	4	コミュニケーション (1) コミュニケーションの基本 (2) 信頼関係を築くためのコミュニケーションのポイント	講義	5	フィジカルアセスメント (1) 在宅におけるフィジカルアセスメントの基本 (2) 症状別フィジカルアセスメント	講義	6	環境整備 (1) 在宅療養環境の基本 (2) 療養環境が引き起こす障害とその予防 (3) 住居環境のアセスメント (4) 環境整備に活用できる社会資源	講義	7	生活リハビリテーション (1) 生活リハビリテーションの基本 (2) 障害や状態に応じた生活リハビリテーション (3) 在宅移行に向けての環境整備	講義
回数	講義内容	方法																												
1	訪問技術の基本と実際 (1) 訪問技術の基本 (2) 訪問看護の心構えと基本姿勢	講義																												
2	訪問看護の実際	講義																												
3	(1) 訪問前の準備 (2) 訪問時の一般的注意事項 (3) 訪問終了後の整理	シミュレーション (初回訪問)																												
4	コミュニケーション (1) コミュニケーションの基本 (2) 信頼関係を築くためのコミュニケーションのポイント	講義																												
5	フィジカルアセスメント (1) 在宅におけるフィジカルアセスメントの基本 (2) 症状別フィジカルアセスメント	講義																												
6	環境整備 (1) 在宅療養環境の基本 (2) 療養環境が引き起こす障害とその予防 (3) 住居環境のアセスメント (4) 環境整備に活用できる社会資源	講義																												
7	生活リハビリテーション (1) 生活リハビリテーションの基本 (2) 障害や状態に応じた生活リハビリテーション (3) 在宅移行に向けての環境整備	講義																												
科目内容																														

回数	講義内容	方法
8	リスクマネジメント (1) 在宅におけるリスクとその対応 感染予防 (1) 在宅における感染予防の基本 (2) 感染予防の実際 (3) 感染症発症時の対応	講義
9	災害時の在宅看護 (1) 災害時の訪問看護の役割 (2) 災害時の対応 (災害対応のステージ) (3) 災害への備え	講義
10	呼吸に関する在宅看護技術 (1) 在宅における呼吸管理・ケアの特徴 (2) 呼吸に関するアセスメント (3) 援助のポイント	講義
11	食生活・嚥下障害に関する在宅看護技術 (1) 在宅での食生活の特徴 (2) 食生活・嚥下に関するアセスメント (3) 援助のポイント	講義
12	排泄に関する在宅看護技術 (1) 在宅での排泄の特徴 (2) 排泄に関するアセスメント (3) 援助のポイント	講義
13	肢位の保持と移動・移乗に関する在宅看護技術 (1) 在宅での肢位の保持と移動・移乗の特徴 (2) 肢位と移動・移乗に関するアセスメント (3) 援助のポイント	講義
14	清潔に関する在宅看護技術 (1) 在宅での清潔援助の特徴 (2) 清潔に関するアセスメント (3) 援助のポイント	講義 演習
15	認知機能のアセスメント法と援助技術 (1) 認知機能のアセスメントが必要な在宅療養者 (2) 援助のポイント コミュニケーション支援技術 (1) コミュニケーション障害のある対象への支援方法	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	地域・在宅看護方法論 Ⅲ（医療管理を必要とする人の看護）	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい> 在宅療養を支える医療的看護実践について理解できることをねらいとする。</p>						
<p><到達目標> 1 医療処置に伴う在宅看護の特徴が理解できる。 2 医療処置に伴う対象への適切な看護が理解できる。</p>						
<p><評価> 提出物、授業態度、出席状況、終了試験</p>						
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院 角田直枝編：よくわかる在宅看護 改訂第3版（Gakken、2020年）</p>						
<p><参考図書> <講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	胃瘻・経管栄養法 (1) 対象の特徴 (2) 栄養剤の種類と特徴				講義
	2	(3) 栄養評価 (4) 合併症の予防 (5) 指導と安全管理				
	3	膀胱留置カテーテル法 (1) 対象の特徴 (2) 合併症の予防 (3) 在宅における安全管理と援助				講義
	4	ストーマ管理 (1) 対象の特徴 (2) ストーマ管理のアセスメント (3) 援助の実際 (4) 療養者・家族への支援 (5) 社会資源の活用				講義
5	服薬管理 (1) 服薬状況の把握と管理 (2) 医師及び薬剤師との連携 (3) 糖尿病の管理				講義 認知症高齢者の看護 (独居高齢者)の看護	

回数	講義内容	方法
6	気管カニューレ管理 (1) 対象の特徴 (2) 気管カニューレ管理のアセスメント (3) 援助の実際 (4) 療養者・家族への支援	講義
7	排痰・吸引、吸入 (1) 在宅における実施と管理 (2) 緊急時の対応	講義
8	インスリン自己注射管理 (1) 対象の特徴 (2) インスリン注射のアセスメント (3) 援助の実際	講義 演習
9		
10	在宅酸素療法 (1) 対象の特徴 (2) 機器の種類と原理 (3) 合併症の予防 (4) 安全管理と援助 (5) 合併症と対応 (6) 療養者・家族への指導 (7) 社会資源の活用	講義
11	排痰・吸引、吸入の援助	演習
12	在宅酸素療法の援助	
13	褥瘡管理 (1) 褥瘡発生のリスクアセスメントと予防 (2) 褥瘡褥創のアセスメントと処置 (3) 除圧・体位変換に関する器具の種類と選択	講義
14	化学療法、放射線療法 (1) 外来通院中の在宅療養者に対する援助	講義
15	まとめ	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	地域・在宅看護方法論 IV（看護過程、経過・ 疾患別看護）	1	16	2	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>在宅療養を支える看護過程の特徴を理解し、在宅看護の共通基本技術や治療処置別看護を想起しながら、看護の展開ができることをねらいとする。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 在宅看護過程の特徴が理解できる。</p> <p>2 在宅看護過程の展開のポイントが理解できる。</p> <p>3 在宅療養者の疾患・治療処置に応じた看護が実施できる。</p>						
<p><評価> 提出物、授業態度、出席状況、終了試験</p>						
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践（医学書院） 角田直枝編：よくわかる在宅看護 改訂第3版（Gakken、2020年）</p>						
<p><参考図書> （1）系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論（医学書院） （2）系統看護学講座 専門分野 精神看護学2 精神看護の展開（医学書院）</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	<p>在宅看護過程</p> <p>1 在宅看護過程の展開のポイント</p> <p>2 在宅看護過程のプロセス</p> <p>（1）情報収集とアセスメント</p> <p>①基本的情報収集と項目</p> <p>②アセスメント内容</p> <p>（2）看護診断</p> <p>（3）訪問・援助計画</p> <p>（4）看護活動の実践</p> <p>（5）評価の視点と方法</p>				講義
	2	<p>在宅看護介入時期別の特徴</p> <p>（1）健康期</p> <p>（2）在宅療養準備期</p> <p>（3）在宅療養移行期</p> <p>（4）在宅療養安定期</p> <p>（5）急性増悪期</p> <p>（6）終末期</p> <p>（7）在宅療養終了期</p>				講義
	3 4	<p>事例で学ぶ在宅看護の看護過程の展開</p> <p>1 アセスメント、計画立案</p>				演習

回数	講義内容	方法
5 6	2 訪問看護の実施、評価	演習
7	疾患別看護 (1) 小児の在宅療養者の看護	講義
8	(2) 精神科疾患の在宅療養者の看護	講義

【教育目的】

成人期にある対象の特徴と健康の保持増進及び疾病予防の重要性を理解し、多様な健康状況に応じた基礎的看護を習得する。

【教育目標】

- 1 成人期にある人の身体的・精神的・社会的特徴と発達課題を踏まえて、生活者としての対象を理解する。
- 2 成人の健康の現状と動向を理解するとともに、健康な生活を維持・増進するために必要な看護の役割を理解する。
- 3 健康障害の発症予防から急性期・回復期・慢性期・終末期まで、各健康レベルに応じた看護が実践できる。
- 4 機能障害のある成人の診療にともなう援助及び、それに応じた日常生活援助が実践できる。
- 5 理論を活用した対象アセスメントとアプローチの方法を身につける。
- 6 保健福祉医療チームにおける看護の役割機能を理解する。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	成人看護学概論	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>成人期は、人のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会・経済的に大きな役割と責任を担っており、外部環境から影響を受ける機会も多い年代である。成人期の健康生活を多角的に捉える視点を学び、成人の生活や生き方、健康問題について理解する。また、健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期にある対象の特徴や生活を理解し、健康の保持・増進に向けての看護者の役割がわかる。 2 成人の健康の現状と動向を理解するとともに、地域、労働者に対する保健活動がわかる。 3 健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの方法がわかる。 						
<p><評価> 終了試験、出席状況</p>						
<p><テキスト> 成人看護学総論（医学書院）</p>						
<p><参考図書> 国民衛生の動向</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	成人期にある人の理解				講義
	2	成人各期の成長発達の特徴と健康問題				講義
	3					講義
	4					講義
	5	成人をとりまく今日の状況				講義
	6	成人期における健康障害－生活習慣・職業・ストレス・セクシュアリティに関連する健康障害				講義
	7					講義
	8	成人保健と健康動向				講義
	9					講義
	10	成人を対象とするヘルスプロモーション施策				講義
	11					講義
	12	労働者に対する保健活動				講義
	13	成人への看護アプローチ方法と指導の実際 －アンドラゴジー・自己決定、ストレスコーピング・危機理論				講義
	14					演習
15	演習					

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	成人看護学方法論Ⅰ (呼吸器系、消化器系)	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>成人看護学方法論では、成人という概念を把握したうえで、人間の各臓器の身体的あるいは精神的に障害が起こった場合に、対象がいかなる状態におかれるか対象の特徴を理解し、対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを系統にそって学習する。ここでは呼吸器系、消化・栄養代謝機能に障害をもつ対象の看護について学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 成人期に起こりやすい呼吸機能障害、消化・栄養代謝機能障害の特徴を把握し、機能障害別に応じた看護を理解する。</p> <p>2 成人期にある人々の、呼吸機能障害、消化・栄養代謝機能障害の発生を予防し、健康の維持・増進が図れるための援助方法を理解する。</p>						
<p><評価> 終了試験、出席状況、提出物</p>						
<p><テキスト> 臨床外科看護各論（医学書院） 成人看護学〔2〕呼吸器（医学書院） 成人看護学〔5〕消化器（医学書院）</p>						
<p><参考図書> よくわかる周術期看護 学研</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	呼吸機能障害と生活体への影響				講義
	2	検査に伴う看護（肺機能検査、血液ガス分析）				講義
	3	肺切除術の術前看護（気道浄化、呼吸訓練など）				講義
	4	肺切除術の術後の看護（ドレナージ・低圧持続吸引等）				講義
	5	慢性的な呼吸機能障害のある対象の看護（COPD）				講義
	6	呼吸機能改善のための呼吸管理（気管切開、人工呼吸器など）				講義
	7	呼吸機能改善のための援助（体位ドレナージ、スクイーミング）				講義
	8	消化・栄養代謝機能役割の生活体への影響				講義
	9	消化器系の検査・処置に伴う看護（内視鏡、透視）				講義
	10	慢性的な消化機能障害のある対象の看護（潰瘍性大腸炎・クローン病）				講義
	11	消化器の手術を受ける対象の看護（胃がん・食道がん）				講義
	12	栄養代謝機能障害のある患者の検査に伴う看護 （肝生検、胆道・胆嚢ドレナージ）				講義
	13	消化器の手術を受ける対象の看護（早期離床、ドレーン管理）				講義
	14	消化器の手術を受ける対象の看護（術後合併症予防）				講義
15	消化器の手術を受ける対象の看護（術後合併症予防）				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	成人看護学方法論Ⅱ (循環器系、身体防御)	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>成人看護学方法論では、成人という概念を把握したうえで、人間の各臓器の身体的あるいは精神的に障害が起こった場合に、対象がいかなる状態におかれるかを理解し、対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを系統にそって学習する。ここでは循環器に障害のある対象の看護、身体防御機能に障害をもつ対象の看護について学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 成人期に起こりやすい循環機能障害、身体防御機能障害の特徴を把握し、機能障害別に応じた看護を理解する。</p> <p>2 成人期にある人々の、循環機能障害、身体防御機能障害の発生を予防し、健康の維持・増進が図れるための援助方法を理解する。</p>						
<p><評価> 終了試験、出席状況、提出物</p>						
<p><テキスト> 成人看護学 [3] 循環器 (医学書院) 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院) 成人看護学 [4] 血液・造血器 (医学書院)</p>						
<p><参考図書> 看護診断ハンドブック</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	循環機能障害と生活体への影響				講義
	2	検査に伴う看護 (心電図)				講義
	3	不整脈のある対象の看護				講義
	4	検査と治療・処置に伴う看護 (ペースメーカー・負荷心電図・血行動態モニタリング)				講義
	5	検査と治療・処置に伴う看護 (IABP・PCI・心臓カテーテル法)				講義
	6	循環器疾患をもつ対象の看護 (心不全・ショック)				講義
	7	循環器疾患をもつ対象の看護 (虚血性心疾患)				講義
	8	循環器疾患をもつ対象の看護 (虚血性心疾患)				講義
	9	身体防御機能の役割とその障害/アレルギー疾患患者の看護				講義
	10	自己免疫疾患患者の看護 (リウマチ)				講義
	11	自己免疫疾患患者の看護 (全身性エリテマトーデス)				講義
	12	HIV/AIDS患者の看護				講義
	13	悪性リンパ腫患者の看護				講義
	14	悪性リンパ腫患者の看護				講義
15	造血幹細胞移植を受ける患者の看護				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	成人看護学方法論Ⅲ (脳神経系、性・生殖 器系)	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>成人看護学方法論では、成人という概念を把握したうえで、人間の各臓器の身体的あるいは精神的に障害が起こった場合に、対象がいかなる状態におかれるか対象の特徴を理解し、対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを系統にそって学習する。ここでは脳・神経機能障害や性、排泄機能の生命に危機的状態に応じた基本的看護および障害をもつ対象の看護について学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 成人期に起こりやすい脳・神経機能障害、性・排泄機能障害の特徴を把握し、機能障害別に応じた看護を理解する。</p> <p>2 成人期にある人々の、脳・神経機能障害、性・排泄機能障害の発生を予防し、健康の維持・増進が図れるための援助方法を理解する。</p>						
<p><評価> 終了試験、出席状況、提出物</p>						
<p><テキスト></p> <p>臨床外科看護各論（医学書院）、成人看護学 [5] 消化器（医学書院）、成人看護学 [7] 脳・神経（医学書院）、成人看護学 [8] 腎・泌尿器（医学書院）、成人看護学 [9] 女性生殖器（医学書院）</p>						
<p><参考図書> よくわかる周術期看護（学研）</p>						
<p><講義計画></p>						
科 目 内 容	回数	講義内容			方法	
	1	脳血管障害と生活体への影響（脳血管疾患、脳ヘルニアなど）			講義	
	2	脳・神経機能障害の症状と看護（意識障害、運動機能障害）			講義	
	3	脳・神経機能障害の症状と看護（言語機能障害、高次脳機能障害）			講義	
	4	検査と治療・処置に伴う看護（脊髄検査、脳機能検査）			講義	
	5	検査と治療・処置に伴う看護（脳室ドレナージ、t-PA）			講義	
	6	脳・神経機能障害の運動機能障害への援助（筋増強訓練）			講義	
	7	脳・神経機能障害の高次脳障害への援助（失語、失認、失行）			講義	
	8	脳・神経機能障害の感覚機能障害への援助（視野障害、平衡感覚）			講義	
	9	排泄機能変更を必要とする対象の看護（人工肛門・膀胱造設術に伴う術後合併症予防）			講義	
	10	人工肛門・人工膀胱造設術を受ける対象の看護（ストマ管理）			講義・演習	
	11	排泄経路変更に伴う術前処置（ストマサイトマーキング）			講義・演習	
	12	排泄経路変更に伴う日常生活支援（食事・生活・入浴など）			演習	
	13	泌尿器科手術をうける対象の看護			講義	
	14	乳房切除術を受ける対象の看護（乳房の触診法、リンパ浮腫予防）			講義	
15	乳房切除術後の術後回復支援（マンマリハビリテーション）			演習		

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	成人看護学方法論Ⅳ (内分泌・代謝系、腎臓、感覚器系)	1	30	2	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>成人看護学方法論では、成人という概念を把握したうえで、人間の各臓器の身体的あるいは精神的に障害が起こった場合に、対象がいかなる状態におかれるか対象の特徴を理解し、対象のニーズを満たすためにはどのようにすればよいかを系統に沿って学習する。ここでは内分泌・代謝機能障害、感覚機能障害のある対象に応じた基本的看護援助について学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 成人期に起こりやすい内分泌・代謝機能障害、感覚機能障害の特徴を把握し、機能障害別に応じた看護を理解する。 2 成人期にある人々の、内分泌・代謝機能障害、感覚機能障害の発生を予防し、健康の維持・増進が図れるための援助方法を理解する。 						
<p><評価> 終了試験、出席状況、提出物</p>						
<p><テキスト></p> <p>成人看護学 [6] 内分泌・代謝 (医学書院)、成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院)、成人看護学 [12] 皮膚 (医学書院)、成人看護学 [13] 眼 (医学書院) 成人看護学 [13] 耳鼻咽喉 歯・口腔 (メヂカルフレンド社)</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容			方法	
	1	内部環境機能障害のある患者の看護 (高体温・低体温・酸塩基平衡)			講義	
	2	内分泌機能障害のある患者の看護 (下垂体機能障害)			講義	
	3	内分泌機能障害のある患者の看護 (甲状腺機能障害)			講義	
	4	栄養代謝障害のある患者の看護 (肝機能障害)			講義	
	5	栄養代謝障害のある患者の看護 (肝機能障害)			講義	
	6	糖代謝機能障害のある患者の看護 (糖・脂質・尿酸代謝障害)			講義	
	7	脂質・尿酸代謝障害の観察・アセスメントと看護			講義	
	8	検査・治療・処置に伴う看護 (食事・薬物・運動療法、生活指導)			講義	
	9	糖代謝機能障害のある対象の看護 (自己血糖測定、自己注射)			演習	
	10	糖代謝機能障害のある対象の看護			講義・演習	
	11	腎代謝機能障害のある対象の看護 (透析、腎移植)			講義	
	12	腎代謝機能障害のある対象の看護 (生活指導)			講義	
	13	感覚機能障害のある対象の看護 (眼疾患)			講義	
	14	感覚機能障害のある対象の看護 (耳鼻科疾患)			講義	
15	感覚機能障害のある対象の看護 (咽頭・喉頭がん)			講義		

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	成人看護学方法論Ⅴ (がん看護、緩和ケア)	1	30	2	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>がん医療は日々進歩しており、生存率を向上させている。高度先進医療技術の発展やがん遺伝子の検出、分子標的薬の開発などにより、個別化医療も進んでいる。がん患者の現状と問題、がんに対する最新の知見や根拠となる知識を学び、その人らしい生活を送れるよう援助するための看護を学ぶ。また、終末期にある対象および家族のQOL向上のための必要な知識、技術を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 がん患者の現状と問題からがん看護の役割がわかる。 2 がん治療に伴う看護がわかる。 3 終末期における対象全人的苦痛を理解し、症状マネジメントの方法がわかる。 4 終末期における倫理的問題を理解し、意思決定支援の方法がわかる。 						
<p><評価> 終了試験 出席状況 提出物</p>						
<p><テキスト> がん看護学 (医学書院) 臨床放射線医学 (医学書院) 緩和ケア (医学書院)</p>						
<p><参考図書> 看護診断ハンドブック</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	がん医療の現在と看護 終末期および緩和ケアを必要とする対象と家族の特徴				講義
	2	がん治療に対する看護 (薬物療法)				講義
	3	がん治療に対する看護 (薬物療法)				講義
	4	がん治療に対する看護 (放射線療法)				講義
	5	がん治療に対する看護 (放射線療法)				講義
	6	症状アセスメントとマネジメント (痛み)				講義
	7					
	8	症状アセスメントとマネジメント (呼吸器・消化器・倦怠感・浮腫)				講義
	9	症状アセスメントとマネジメント (睡眠障害・不安・うつ・せん妄)				講義
	10	がん患者の療養支援				講義
	11	終末期における家族ケア				講義
	12	補完代替療法 終末期における意思決定支援				講義
	13	看護過程 終末期にある対象の看護				講義・演習
	14	看護過程 終末期にある対象の看護				講義・演習
15	看護過程 終末期にある対象の看護				講義・演習	

4 老年看護学 [4 単位] 92 時間

【教育目的】

老年期にある対象と家族を理解し、老化と疾病・障害の程度に応じた看護に必要な知識・技術・態度を習得する。

【教育目標】

- 1 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化を知り、高齢者のライフステージと健康課題を理解する。
- 2 社会構造の変化や人口の高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉の問題に対する理解を深める。
- 3 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護を理解する。
- 4 老年看護の役割・機能を理解する。
- 5 老化と疾病・障害の程度に応じた、老年看護の必要性和基礎的看護技術を習得する。
- 6 老年期にある対象の発達段階と老化の特徴および健康障害による問題を把握し、人格を尊重しながら対象と家族に応じた看護を学ぶ。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	老年看護学概論	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化を知り、老年者のライフステージとその健康課題を理解する。 2 社会構造の変化や人口の高齢化に伴う高齢者の保健・医療・福祉の問題に対する理解を深める。 						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年期を生きる人々の老化に伴う身体的・精神的・社会的特徴を知る。 2 高齢者をとりまく社会、保健・医療・福祉の動向がわかる。 3 高齢者の生活を維持するための家族及び地域の役割、ソーシャルサポートシステムの構造を理解する。 4 高齢者を介護する家族の看護がわかる。 5 自分なりの老年観が述べられる。 						
<p><評価> 終了試験、提出物状況、出席状況</p>						
<p><テキスト> 老年看護学（医学書院） 国民衛生の動向</p>						
<p><参考図書> ユマニチュード入門</p>						
<p><講義計画></p>						
講義内容		講義内容			方法	
	1	1 老年期の理解 (1) 老年期の定義・意義 (2) 加齢と老化			講義	
	2	1 老年期の理解 (3) 加齢に伴う変化（身体的、精神的、社会的機能の変化） (4) 生活の変化			講義	
	3	1 老年期の理解 (5) 老年期の発達と成熟 (6) 高齢者の多様性、ライフヒストリー			講義	
	4	2 高齢者をとりまく社会 ・超高齢社会の統計的輪郭			講義	
	5	3 高齢者をとりまく社会・制度 (1) 老人福祉法 (2) 医療保険制度、高齢者医療確保法			講義	
	6	3 高齢者をとりまく社会・制度 (3) 介護保険制度			講義	
	7	4 老年看護の特徴 (1) 老年看護の基本 ・老年看護の特徴、チームアプローチ（多職種連携） ・高齢者の人生の質の保証			講義	
	8	4 老年看護の特徴 (1) 老年看護の基本 ・老年看護における概念、理論 (2) 老年看護の倫理 ・高齢者差別 ・高齢者の権利擁護			講義	

回数	講義内容	方法
9	4 老年看護の特徴 (2) 老年看護の倫理 ・高齢者虐待	講義
10	(2) 老年看護の倫理 ・安全確保と身体拘束	講義
11	5 高齢者疑似体験	演習
12	6 認知症、ユマニチュード	講義
13	7 高齢者と家族 (1) 高齢者と家族の機能 (2) 介護家族の課題	講義
14	7 高齢者と家族 (3) 介護家族の生活と健康 看護の対象としての家族、介護者の健康、介護者の社会生活 (4) 介護家族への看護	講義
15	8 老年観	グループ学習

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	老年看護学方法論 I	1	16	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>老年看護の役割・機能を理解し、高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老年看護の役割・機能がわかる。 2 老年看護の基本的技術がわかる。 3 高齢者の健康を支える看護がわかる。 4 高齢者の保健医療福祉施設における看護がわかる。 						
<p><評価> 終了試験、提出物状況、出席状況</p>						
<p><テキスト> 老年看護学、老年看護・病態・疾患論、成人看護学「運動器」（医学書院） 根拠がわかる老年看護技術（メヂカルフレンド社）</p>						
<p><参考図書></p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 身体の高齢変化とアセスメント (1) 皮膚と付属器 (2) 視聴覚とその他の感覚				講義
	2	1 身体の高齢変化とアセスメント (3) 循環系 (4) 呼吸器系 (5) 消化・吸収				講義
	3	1 身体の高齢変化とアセスメント (6) ホルモンの分泌 (7) 泌尿生殖器と性 (8) 運動系（ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル）				講義
	4	2 高齢者に見られる身体症状とアセスメント (1) 発熱 (2) 痛み (3) 痒み (4) 脱水 (5) 嘔吐 (6) 浮腫 (7) 倦怠感				講義
5	3 高齢者の生活を支える看護 (1) コミュニケーション (2) 基本動作と環境アセスメント、生活機能のアセスメント (3) 転倒・転落				講義	

科目 内容	回数	講義内容	方法
	6	3 高齢者の生活を支える看護 (4) 清潔・身だしなみ・衣生活 (5) 活動と休息(生活リズム) (6) 性(セクシュアリティ) (7) 社会参加	講義
	7	4 介護保険と老年看護 (1) 高齢者の施設サービスにおける看護 ・介護老人福祉施設の特徴と看護 (2) 高齢者の居宅サービスにおける看護 ・認知症対応型共同生活介護の特徴と看護 ・小規模多機能型居宅介護の特徴と看護	講義
	8	4 介護保険と老年看護 (3) 高齢者の施設サービスにおける看護 ・介護老人保健施設の特徴と看護	講義 (外部講師)

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	老年看護学方法論Ⅱ	1	16	2	前期	
<講義のねらい> さまざまな健康状態や受療形態に応じた高齢者の看護を理解する。						
<到達目標> 1 治療を受ける高齢者への看護がわかる。 2 運動機能障害のある高齢者の看護がわかる。 3 高齢者におけるエンドオブライフケアについてわかる。						
<評価> 終了試験（外部講師と学内教員）、出席状況						
<テキスト> 老年看護学、老年看護・病態・疾患論、成人看護学「運動器」医学書院 根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社						
<参考図書> <講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 治療を受ける高齢者への看護 (1) 受療形態に応じた看護（外来・検査・入院）				講義
	2	1 治療を受ける高齢者への看護 (2) 薬物療法				講義
	3	2 運動機能障害にある高齢者の看護 (1) 骨粗鬆症 (2) 関節リウマチ (3) ロコモティブシンドローム (4) 廃用症候群				講義
	4	2 運動機能障害にある高齢者の看護				講義
	5	(5) 骨折				
	6	2 運動機能障害にある高齢者の看護				講義
	7	(6) 手術療法（急性期・慢性期・回復期）、ギプス、牽引				
8	3 エンド・オブ・ライフ・ケア				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	老年看護学方法論Ⅲ	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>老化と高齢者に特有な症候・疾病・障害の程度に応じた、老年看護の必要性と基礎的看護技術を習得する。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 障害・疾患をもつ高齢者への日常生活の援助ができる。</p> <p>2 認知症高齢者への援助がわかる。</p> <p>3 紙上患者の看護過程の展開ができる。</p>						
<p><評価> 終了試験（外部講師2名、学内教員）、提出物状況、出席状況</p>						
<p><テキスト> 老年看護学（医学書院） 老年看護・病態・疾患論（医学書院） 根拠がわかる老年看護技術（メヂカルフレンド社）</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 障害・疾患をもつ高齢者の看護 (1) 摂食・嚥下障害、誤嚥性肺炎、低栄養				講義
	2	1 障害・疾患をもつ高齢者の看護 (2) 感覚機能（視覚、聴覚、皮膚など）障害				講義
	3	1 障害・疾患をもつ高齢者の看護 (3) 尿失禁、便秘・下痢 ・失禁の援助（皮膚粘膜の保護）				講義
	4	2 皮膚のアセスメントと看護 (1) 褥瘡発生の危険のアセスメント				講義
	5	2 皮膚のアセスメントと看護 (2) 褥瘡予防のためのケアの計画・実施 (3) 創傷の観察				講義
	6	2 皮膚のアセスメントと看護 (4) オムツ交換・体圧分散				演習 (オムツ交換・体圧分散)
	7	2 認知症高齢者の援助 (1) 認知症の病態と要因 (2) 認知機能の評価方法				講義
	8	2 認知症高齢者の援助 (3) 認知症の予防 (4) 認知症の治療と援助				講義
9	2 認知症高齢者の援助 (5) 療法的なアプローチ (6) 老年期に多い精神・神経疾患（脳血管障害、パーキンソン病、うつ状態[うつ病]、せん妄）				講義	

科目内容	回数	講義内容	方法
	10	2 認知症高齢者の援助 (7) 認知症高齢者に対するコミュニケーション方法	講義
	11	2 認知症高齢者の援助 (8) 行動・心理症状と生活への影響	講義
	12	2 認知症高齢者の援助 (9) 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム	講義
	13	9 看護過程の展開 (1) 老年期に特徴的な疾患と看護	講義 演習
	14	9 看護過程の展開	演習
	15	(2) 看護過程の展開	

5 小児看護学 [6 単位] 210 時間

【教育目的】

人間のライフサイクルにおける小児期の子どもの身体的・精神的・社会的特徴の理解を基盤とし、あらゆる健康のレベルにある子どもとその家族に看護を行うための基本的な知識・技術・態度を習得する。

【教育目標】

- 1 子どもの特性を理解し、子どもの成長・発達を理解する。
- 2 子ども各期の日常生活を理解し、子どもの看護・保健・福祉について理解する。
- 3 子ども特有の疾患を理解し、診断や医学的対応、管理について理解する。
- 4 健康障害をもつ子どもと家族が生活・療養するための看護実践について理解する。
- 5 健康障害をもつ子どもと家族の看護に必要な知識・技術・態度を身につける。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	小児看護学概論Ⅰ	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>子どもは常に成長・発達している存在であり、その成長・発達は子どもを取り巻く社会・家族・環境に影響を受けることを理解する。また子どもの権利と小児看護の変遷を学び、子どもが過ごす様々な場所で小児看護に関わる者の役割と課題について学び・考える。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小児看護の変遷と小児看護の課題を理解する。 2 子どもを取り巻く環境（社会背景、法律・施策）を理解する。 3 子どもの権利と小児看護における倫理的配慮について理解することができる。 4 発達課題と発達理論が理解できる。 5 子どもの心身の発達を理解する。 						
<p><評価> 課題提出、終了試験</p>						
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	小児看護の対象、小児看護の場と特徴、他職種協働 小児看護の変遷・小児看護の役割・子ども中心のケア				講義
	2	子どもの権利、小児医療・小児看護における倫理的配慮 子どもの虐待防止（虐待防止法を含む）				講義
	3	子どもと家族をとり巻く法律と政策 ・児童福祉、母子保健、医療費の制度 ・予防接種、学校保健、特別支援教育				講義
	4					
	5	子どもにとっての「家族」 家族のアセスメント				講義
	6	諸統計からみた子どもと家族 子どもと家族の健康における看護師の役割				講義・ワーク
	7	発達課題と発達理論（ポウルビー・エリクソン・ピアジェ）				講義・ワーク
	8					
	9	小児の成長・発達の一般的原則 成長・発達に影響する因子 子どもの成長・発達のアセスメント				講義
	10	新生児の心身の成長・発達 ・形態的特徴・身体生理的特徴・各機能の発達				講義
11	乳児期の心身の成長・発達 ・形態的特徴 ・身体生理的特徴 ・感覚機能 ・運動機能能 ・知的機能 ・コミュニケーション機能 ・情緒と社会的機能				講義	

回数	講義内容	方法
1 2	幼児期の心身の成長・発達 ・形態的特徴 ・身体整理の特徴 ・感覚機能 ・運動機能 ・知能機能 ・コミュニケーション機能 ・情緒と社会的機能	講義
1 3	学童期の心身の成長・発達 ・形態的特徴 ・身体生理の特徴 ・感覚運動機能 ・知的情緒機能 ・社会的機能	講義
1 4	思春期の心身の成長・発達 ・形態的特徴・身体生理の特徴・知的・情緒・心理・社会的機能	講義・ワーク
1 5	総括	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	小児看護学概論Ⅱ	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの成長・発達と発達段階ごとの健康増進のための子どもと家族への看護について学ぶ。 2 発達段階に合わせたコミュニケーションの方法を知り、子どもと関わることができる。 3 子どもとの関わりの実際をとおして発達段階に応じた援助の方法を学ぶ。 						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発達段階ごとの特徴及び発達に応じた看護の特性を理解する。 2 発達段階に応じたコミュニケーションができる。 3 発達段階に応じた看護の実際がわかる。 						
<p><評価> 課題提出、終了試験</p>						
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	新生児の養育と発達を促す支援 ・日常生活の世話 ・事故防止 ・感染防止 ・家族関係の調整 ・愛着形成				講義
	2 3	乳児の養育と発達を促す支援 ・日常生活の世話 ・遊びの支援 ・事故防止 ・乳幼児突然死症候群のその予防 ・育児支援				講義・ワーク
	4 5	幼児の養育と発達を促す支援 ・日常生活の自立と世話 ・遊びと運動の支援 ・事故防止 ・予防接種 ・生活習慣の改善 ・育児支援				講義・ワーク
	6	発達段階ごとのコミュニケーションの工夫				ワーク
	7 8	幼稚園訪問				市内園訪問
	9 10	幼稚園訪問からの学びの共有				ワーク
	11	学童期の発達を促す支援<現状> ・不適応行動、症状 ・学童を取り巻く諸環境				講義
	12	学童期の発達を促す支援<支援> ・学校生活への適応 ・食生活 ・学習と遊び ・生活習慣病の予防 ・疾病予防 ・安全教育、事故予防 ・性教育				講義・ワーク
	13	思春期の発達を促す支援<現状> ・生活の特徴 ・心理・社会的適応に関する問題 ・飲酒、喫煙 ・性に関する健康問題 ・反社会、逸脱行動 ・事故、外傷				講義

回数	講義内容	方法
14	思春期の発達を促す支援<支援> ・心の発達への援助 ・第二次性徴に関する援助 ・思春期の健康教育 ・生活習慣病予防 ・日常生活における衛生、健康教育 ・性教育 ・安全教育 ・親へのアドバイス	講義・ワーク
15	総括	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	小児看護学方法論Ⅰ	1	30	2	前期	
<講義のねらい> 1 子ども特有の疾患を理解し、診断や医学的対応、管理について学ぶ。 2 子どもの心肺蘇生の方法と対応を学ぶ。						
<到達目標> 各疾患の特徴を知り、それに伴う検査・治療について理解できる。 子どもの心肺蘇生の方法とその対応方法を知り実践できる。						
<評価> 終了試験						
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論（医学書院）						
<参考図書> <講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	循環器系				講義
	2	呼吸器				講義
	3	消化器系				講義
	4	血液系				講義
	5	内分泌・代謝系				講義
	6	運動系				講義
	7	脳・神経系				講義
	8	感覚器系				講義
	9	腎臓・泌尿・生殖器計				講義
	10	精神				講義
	11	アレルギー・膠原病				講義
	12	感染症				講義
	13	出生前の疾患				講義
	14	新生児の疾患				講義
15	小児の救急（心肺蘇生）				講義・演習	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	小児看護学方法論Ⅱ	1	30	2	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>健康障害や特別な状況にある子どもと家族が生活・療養するための基本的な看護について学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康障害が子どもとその家族へ与える影響を理解する。 2 健康障害のある子どもと家族に対する基本的な健康段階別の看護が理解する。 3 対象の疾患と発達段階を踏まえバイタルサイン測定・身体計測ができる。 4 事例を用いて様々な状況に応じた観察の視点がわかり、看護の展開ができる。 						
<p><評価> 課題提出、終了試験</p>						
<p><テキスト> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論（医学書院）</p>						
<p><参考図書></p> <p>小児の疾患と看護（ナーシング・グラフィカ）、パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護学（照林社）</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護				講義
	2	外来における子どもと家族への看護				講義
	3	特別な状況にある子どもと家族への看護（虐待・災害）				講義
	4	検査や処置を受ける子どもと家族への看護				講義
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定、身体計測 ・採血、採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺、吸引、酸素療法、経管栄養 ・与薬（注射、輸液療法） 				
	6	急性期にある子どもへの看護				講義
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・急性症状のある子どもと家族への看護 ・症状別看護（発熱・脱水・嘔吐・下痢・呼吸困難・けいれん、啼泣・不機嫌） ・疾患別看護（川崎病の看護：事例A君） 				
	8	A君への問診、バイタルサイン測定、身体計測 ～計画立案～				ワーク
	9	A君への問診、バイタルサイン測定、身体計測 ～実施～				演習
	10	救急救命処置が必要な子どもと家族への看護 <ul style="list-style-type: none"> ・熱傷・溺水・誤飲 周手術期における子どもと家族への看護・日帰り手術 <ul style="list-style-type: none"> ・腸重積、鎖肛 手術直後から集中治療が必要な子どもと家族への看護				講義
	11	感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 活動制限が必要な子どもと家族への看護 <ul style="list-style-type: none"> ・気管支喘息、急性糸球体腎炎、ネフローゼの看護 				講義
12	慢性的な疾患・障害がある子どもと家族への看護 <ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患を持つ子どもと家族への看護（若年性糖尿病看護） 				講義	

科目 内容	回数	講義内容	方法
	13	先天性疾患のある子どもと家族への看護 ・ダウン症候群、口唇口蓋裂 心身障害のある子どもと家族への看護 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族への看護	講義
	14	終末期にある子どもと家族への看護 ・痛みを表現している子どもと家族への看護 ・白血病の看護	講義
	15	看護過程の展開 ファロー四徴症	講義

6 母性看護学 [4 単位] 210 時間

【教育目的】

女性の一生をとおり、母性にかかわる健康問題を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、母性としての役割が果たせるための基本的な看護を習得する。

【教育目標】

- 1 人間の成長発達段階から母性の概念を理解し、母性看護の機能と役割を理解する。
- 2 母性各期における健康に影響を及ぼす諸因子を理解し、母性の健康保持・増進のための援助内容・方法を理解する。
- 3 周産期看護の意義・必要性を理解し、周産期にある対象および家族への基礎的看護が実施できる。
- 4 生命誕生と生命倫理について考えることができる。
- 5 女性特有の健康障害と対象に応じた基礎的看護を理解する。
- 6 母子保健に関する社会資源を活用し、母子保健医療チームの一員として、看護師の役割について理解する。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	母性看護学概論	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>母性の概念及び母性の特徴について総合的に理解し、母性の健康保持・増進に向けての看護を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 母性の特性から、母性看護の概念・意義について理解する。 リプロダクティブヘルスの意義を理解する。 母性の発達段階に応じた健康や健康問題を理解し、健康保持・増進のための看護がわかる。 母性およびその家族への看護の必要性がわかる。 母性の対象をとりまく保健・医療・福祉の現状がわかる。 生命倫理について自己の考えを深めることができる。 						
<p><評価> 終了試験、出席状況、課題提出状況</p>						
<p><テキスト> 母性看護学[1] 母性看護学概論 母性看護学[2] 母性看護学各論</p>						
<p><参考図書> 国民衛生の動向</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	母性看護の概念 リプロダクティブヘルス／ライツ、女性・家族中心の看護、ヘルスプロモーション、ウェルネス、プレコンセプションケア				講義
	2	母性看護活動の場と役割／母性看護と倫理				講義
	3	母性保健の統計と現状				講義
	4	母性保健の法律・制度				講義
	5	人間の性と生殖① 性の概念と多様性				講義
	6	人間の性と生殖② 性周期と生殖のメカニズム				講義
	7	リプロダクティブヘルスケア ・家族計画・受胎調節、人工妊娠中絶、性感染症、喫煙・飲酒				講義
	8	・ドメスティックバイオレンス(DV)、虐待と母子関係 国際化社会と母性看護・災害時の妊産婦と家族への支援				講義
	9	女性のライフサイクル各期における健康と看護① 思春期・成熟期				講義
	10	女性のライフサイクル各期における健康と看護② 更年期・老年期				講義
	11	女性のライフサイクル各期における健康課題・健康問題と看護①				ワーク
	12	女性のライフサイクル各期における健康課題・健康問題と看護②				ワーク
	13	女性のライフサイクル各期における健康課題・健康問題と看護③				ワーク
	14	女性のライフサイクル各期における健康課題・健康問題と看護④				発表
15	母性看護学概論まとめ				講義	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	母性看護学方法論 I (産婦人科の疾患)	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>女性生殖器障害、妊娠・分娩の経過および妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的理解、妊娠・分娩・産褥経過中の異常や問題を理解し、診断や医学的対応、管理の方法を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 母性における生殖と倫理の現状と課題について知る。 妊娠・分娩・産褥の整理と経過および経過中の管理についてわかる。 新生児の整理と経過および健康逸脱と医学的対応についてわかる。 妊娠・分娩・産褥期の健康逸脱・問題と診断・医学的対応と管理について知る。 女性生殖器障害についての病態、診断、治療についてわかる。 						
<p><評価> 終了試験、出席状況</p>						
<p><テキスト> 女性生殖器 成人看護学分野⑨ 母性看護各論 母性看護学②</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	女性生殖器の構造と機能、病態生理				講義
	2	性分化疾患、外陰・膣の疾患 ・性分化疾患の分類と特徴、外陰・膣の炎症・感染症				講義
	3	子宮の疾患、絨毛性疾患 ・発生・発達の異常、良性・悪性腫瘍				講義
	4	卵管・卵巣の疾患、機能的疾患、感染症 ・炎症、異所性妊娠、良性・悪性腫瘍、その分類と診断・治療、原因菌と症状				講義
	5	妊娠の生理 ・妊娠の生理、妊婦の身体的特徴と変化、胎児の発育と生理				講義
	6	妊娠の異常① ・ハイリスク妊娠、妊娠悪阻、感染症、妊娠高血圧症候群				講義
	7	妊娠の異常② ・ハイリスク妊娠、妊娠糖尿病、多胎妊娠、異所性妊娠、流早産等				講義
8	分娩の生理 ・分娩の3要素、分娩の機序、分娩の経過、分娩の進行と産婦・胎児の健康状態				講義	

科目 内 容	回数	講義内容	方法
	9	分娩の異常 ・分娩の3要素における異常、胎児付属物の異常、分娩時の損傷、産科 処置・手術に伴う問題	講義
	10	新生児の生理・異常 ・胎児から新生児への生理的变化、身体的特徴、発育の評価、健康状態 のアセスメント ・新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児、高ビリルビン血症、新生児の 異常と診断(呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、胎便吸引症候群)	講義
	11	産褥の生理 ・褥婦の身体的変化と産褥経過の診断	講義
	12	産褥の異常 ・子宮復古不全、発熱、産褥期の精神症状	講義
	13	生殖と倫理 ・ 遺伝相談 ・ 出生前診断	講義
	14	不妊症・不育症／治療・診断と検査、プレコンセプションケア	講義
	15	まとめ	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	母性看護学方法論Ⅱ (妊娠期から産褥期の看護)	1	30	2	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>妊娠・分娩・産褥および新生児とその家族の特性を理解し、それぞれの過程においてセルフケア能力を高め適応促進に向けた看護を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 産科施設の特性がわかる。</p> <p>2 妊婦・産婦・褥婦が順調に経過するための基礎的看護を理解する。</p> <p>3 新生児が胎外生活に適応するための基礎的看護を理解する。</p>						
<p><評価> 終了試験 出席状況</p>						
<p><テキスト> 母性看護各論 母性看護学② パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	産科施設の機能・役割 妊娠期の看護① 妊娠の生理と身体的・心理的・社会的特性				講義
	2	妊娠期の看護② 妊婦と胎児のアセスメント				講義
	3	妊娠期の看護③ 妊婦と家族の看護				講義
	4	妊娠期の看護④ 妊婦に必要な看護技術／妊婦健診 腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、胎児心音測定				講義・演習
	5	分娩期の看護① 分娩の要素と経過、産婦・胎児・家族のアセスメント				講義
	6	分娩期の看護② 産婦と家族への看護				講義
	7	分娩期の看護③ 分娩時の看護の実際 子宮復古、外陰部・悪露の観察等				講義・演習
	8	産褥期・新生児の看護① 褥婦のアセスメント、産褥経過、褥婦の心身の変化				講義
	9	産褥期・新生児の看護② 褥婦の退行性変化、進行性変化、日常生活とセルフケア、パースレビュー、親役割の支援				講義
	10	産褥期・新生児の看護③ 褥婦の母乳栄養への援助、育児支援、育児技術				講義
	11	産褥期・新生児の看護④ 褥婦と家族への支援				講義
	12	産褥期・新生児の看護⑤ 新生児の生理とアセスメント 出生直後・出生から退院まで・1カ月健診までの看護				講義
	13	産褥期・新生児の看護⑥ 新生児の異常、早産・低出生体重児				講義
	14	産褥期・新生児の看護⑦ 新生児の異常、黄疸、周産期システムの実際				講義
15	産褥期・新生児の看護⑧ 新生児の看護技術／沐浴・計測・観察				演習	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	母性看護学方法論Ⅲ (産婦人科の看護過程、産婦人科の看護)	1	30	2	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>ハイリスクな状況における妊産褥婦および、新生児と女性特有の健康障害のある対象を理解し、家族を含めた看護を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 事例を通し、看護過程の展開方法が分かる。</p> <p>2 ハイリスク妊産褥婦の対象理解と基本的看護がわかる。</p> <p>3 女性特有の健康障害への看護がわかる。</p>						
<p><評価> 終了試験、提出物、出席状況</p>						
<p><テキスト> 母性看護各論 母性看護学② 女性生殖器 成人看護学分野⑨</p> <p>ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護</p>						
<p><参考図書></p> <p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	女性特有の健康障害に対する看護①女性生殖器解剖・生理・性周期				講義
	2	女性特有の健康障害に対する看護②検査・症状・治療・処置に伴う看護				講義
	3	女性生殖器疾患の看護過程①				講義
	4	女性生殖器疾患の看護過程②				演習
	5	ハイリスク妊婦の看護：感染症、肥満、高年・若年妊娠、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、切迫早産・流産、出生前診断				講義
	6	ハイリスク産婦の看護：陣痛異常、前期破水、分娩時異常出血、胎児機能不全、帝王切開				講義
	7	ハイリスク褥婦・新生児の看護：子宮復古不全、産褥熱・乳腺炎、マタニティブルー・産後うつ病、早産児・低出生体重児、異常を持つ新生児の看護等				講義
	8	母性看護の看護過程 マタニティサイクルの看護の特徴 ウェルネス看護診断				講義
	9	妊婦の①情報の意味とアセスメント、妊娠期の特徴理解				講義・演習
	10	妊婦の②アセスメントと保健指導				講義・演習
	11	褥婦の看護過程①情報の意味とアセスメント				講義・演習
	12	褥婦の看護過程②計画立案				講義・演習
	13	新生児の看護過程①情報の意味とアセスメント				講義・演習
	14	新生児の看護過程②計画立案				講義・演習
15	母性看護学方法論Ⅲまとめ				講義	

7 精神看護学 [4 単位] 92 時間

【教育目的】

すべてのライフサイクルにある精神看護の対象を理解し、心の健康の維持増進および精神疾患・障害をもつ人と家族の看護を行なうために必要な知識・技術・態度を修得する。

【教育目標】

- 1 精神看護の目的・対象・特徴・役割について学び、精神看護に必要な患者—看護者関係の意義と成立過程を理解する。
- 2 精神保健医療・看護の歴史的変遷と、現状の問題や今後の課題を理解する。
- 3 心の働きと発達、ライフサイクルや様々な危機状況における心の健康問題を理解し、精神保健の概念と心の健康維持・回復を図るための援助について学ぶ。
- 4 精神疾患・障害を持つ人と家族に対する理解を深め、看護に必要な知識・技術・態度を習得する。
- 5 精神疾患・障害をもつ人の社会復帰・社会参加の意義について学び、保健、医療、福祉との連携を理解する。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	精神看護学概論 I	1	30	1	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>現代社会における精神保健・看護ニーズの高まりの背景を知り、精神障害とは何か、精神障害者とはどのような人々か、その基本を理解する。</p> <p>精神看護学緒論の基本的な考え方、精神看護学の心構えを学ぶ。</p> <p>精神科看護師として知っておくべき法制度を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 精神に健康問題をもつ人の理解の方法と、看護職の担う役割・機能について理解できる。</p> <p>2 精神障害者の社会における処遇のされ方および関連する制度・法律、精神科医療を歴史変遷から理解できる。</p>						
<p><評価> 授業態度 提出物 終了試験</p>						
<p><テキスト> 精神看護学の基礎 (医学書院) 精神保健福祉 (医学書院)</p> <p>精神看護学の発展 (医学書院)</p>						
<p><参考図書></p> <p>講義中に適宜資料を配布</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 精神看護学で学ぶこと (1) 精神の健康と障害 (2) 精神医療の課題				講義
	2	2 精神保健の考え方 (1) 精神の健康とは (2) 精神保健における3つの予防概念				講義
	3	3 ストレス・危機 (1) 心的外傷 (トラウマ) (2) レジリエンス				講義
	4	4 発達とところ (1) 発達とはなにか (2) ライフサイクルと発達課題 (3) 発達課題と心の特徴				講義
5	5 回復とは (1) リカバリーの考え方 臨床的リカバリーとパーソナルリカバリー (2) エンパワメント				講義	

回数	講義内容	方法
6	6 精神障害の捉え方 (1) 精神障害の分類 (2) 国際生活機能分類 (ICF)	講義
7	7 精神障害と治療の歴史 (1) 日本における精神医学・精神医療の流れ (2) 精神障保健医療福祉に関する法・制度の歴史	グループワーク 発表
8		
9	8 精神障害と法制度 (1) おもな精神保健医療福祉対策とその動向	講義
10	9 精神医療体制 (1) 精神科での治療 精神療法・薬物療法・電気けいれん療法	講義
11	10 家族と精神の健康 (1) 家族システム	講義
12	11 医療の場におけるメンタルヘルスと看護 (1) 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス (2) リエゾン精神看護とその活動 (3) 看護師のメンタルヘルスへの支援	講義
13	12 災害時のメンタルヘルスと看護 (1) 災害時における心のケア (2) 災害にみまわれた人への心理とケア (3) 支援者のメンタルヘルスとケア	講義
14		
15	13 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス (1) 感情労働とは (2) 看護師の感情ワーク	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当																				
専門分野	精神看護学概論Ⅱ	1	16	2	前期																					
<p><講義のねらい></p> <p>人格を支える精神の諸活動を学ぶ。人格の発達に関する代表的な理論を学び、人間の心の構造と発達、対象との関係により人間が成長していくこと、自己が形成される課程等を理解する。危機とストレスとはなにか、個々がストレスに適切に対処し、危機を乗り換え成長していくためには何が必要か、どのような支援が必要なのかを学ぶ。</p>																										
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神の発達とそれに寄与するさまざまな因子との関係、および発達の過程でよくみられる心の問題が理解できる。 2 精神健康を脅かす環境因子を理解し、その予防や支援状況を理解する。 3 精神に障害を持ちながら地域で暮らす人支える社会制度を理解する。 																										
<p><評価> 授業態度 提出物 終了試験</p>																										
<p><テキスト> 精神看護学の基礎 (医学書院) 精神保健福祉 (医学書院) 精神看護学の発展 (医学書院)</p>																										
<p><参考図書></p> <p>講義中に適宜資料を配布</p>																										
<p><講義計画></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回数</th> <th>講義内容</th> <th>方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">科目内容</td> <td>1</td> <td>1 心のはたらき (1) 意識と認知機能 注意・知覚・記憶・思考 (2) 感情 (3) 学習と行動</td> <td rowspan="2">講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(4) 知能 (5) 心の理論 (6) 検査</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2 心のしくみと人格の発達 (1) 人格と気質 (2) 意識と無意識</td> <td rowspan="3">講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>①自我の構造 ②自我の発達段階 ③防衛機制</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>④対象関係論 ⑤エリクソンの漸成的発達理論 ⑥ボウルビーの愛着理論</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>3 システムとしての人間関係 (1) 集団と個人 (2) グループの活用</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>								回数	講義内容	方法	科目内容	1	1 心のはたらき (1) 意識と認知機能 注意・知覚・記憶・思考 (2) 感情 (3) 学習と行動	講義	2	(4) 知能 (5) 心の理論 (6) 検査	3	2 心のしくみと人格の発達 (1) 人格と気質 (2) 意識と無意識	講義	4	①自我の構造 ②自我の発達段階 ③防衛機制	5	④対象関係論 ⑤エリクソンの漸成的発達理論 ⑥ボウルビーの愛着理論	6	3 システムとしての人間関係 (1) 集団と個人 (2) グループの活用	講義
	回数	講義内容	方法																							
科目内容	1	1 心のはたらき (1) 意識と認知機能 注意・知覚・記憶・思考 (2) 感情 (3) 学習と行動	講義																							
	2	(4) 知能 (5) 心の理論 (6) 検査																								
	3	2 心のしくみと人格の発達 (1) 人格と気質 (2) 意識と無意識	講義																							
	4	①自我の構造 ②自我の発達段階 ③防衛機制																								
	5	④対象関係論 ⑤エリクソンの漸成的発達理論 ⑥ボウルビーの愛着理論																								
	6	3 システムとしての人間関係 (1) 集団と個人 (2) グループの活用	講義																							

	回数	講義内容	方法
科目内容	7	5 精神の障害を持ちながら地域で暮らす人を支える (1) 精神に障害を抱える人が地域で暮らすむずかしさ (2) 当事者が知っておくこと (3) 援助者が心得ておくべきこと	講義
	8	(4) 生活を支えるための社会資源・サービス ①相談支援 ②日中の活動支援 ③一般就労に向けての支援	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	精神看護学方法論Ⅰ	1	16	2	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>「精神を病む」とはどういうことか、「病い」の経験と医学モデルによる「疾患」という2つの側面から精神障害を理解する。精神機能の障害であるさまざまな精神症状、精神障害の診断と分類、検査・治療方法について学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害に対する、原因・分類・症状を知り、精神障害を理解する。 2 精神疾患における検査・治療について理解することができる。 						
<p><評価> 授業態度 提出物 終了試験</p>						
<p><テキスト> 精神看護学の基礎（医学書院）精神看護学の発展（医学書院） 精神保健福祉（医学書院）</p>						
<p><参考図書></p> <p>講義中に適宜資料を配布</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 精神障害の診断と分類				講義
	2	・統合失調症				
	3	・気分〔感情〕障害〔双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群〕				
	4	・神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害				
	5	・精神作用物質による精神および行動の障害				
	6	・発達段階であらわれやすい精神障害・心的				
	6	2 さまざまな精神症状				講義
7	(1) 思考の障害 (2) 感情の場外 (3) 意欲の障害 (4) 知覚の障害 (5) 意識の障害 (6) 記憶の障害 (7) 局在症状					
8	3 精神科における治療と看護				講義	
		(1) 薬物療法（身体合併症）				

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	精神看護学方法論Ⅱ	1	30	2	後期	
<p><講義のねらい></p> <p>看護師としての患者への関わり方、精神科における身体ケアの実際を学ぶ。 精神障害者の地域生活を支える社会制度とその基盤となる考え方を学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 患者と関わる際の基本的姿勢・態度について学び、さらに対人関係やサポートシステムに基づいて状況を把握する方法を理解する。</p> <p>2 精神疾患の看護や生活行動・問題状況の対応の方法、さらに患者が主体的に治療を活用していく上での支援方法などについて学び、看護師の役割を理解する。</p>						
<p><評価> 授業態度、提出物、終了試験</p>						
<p><テキスト> 精神看護学の基礎（医学書院）精神看護学の発展（医学書院） 精神保健福祉（医学書院）</p>						
<p><参考図書></p> <p>講義中に適宜資料を配布</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	<p>1 精神科看護の全体像</p> <p>(1) 治療モデル（精神療法・薬物療法・リハビリテーション）</p> <p>(2) 多職種連携と看護の役割</p>				講義
	2	<p>2 ケアの人間関係</p> <p>(1) ケア的前提・原則・方法</p> <p>(2) 対象理解と自己理解（プロセスレコード）</p>				講義・演習
	3	<p>3 入院治療</p> <p>(1) 入院形態</p> <p>(2) 精神科病棟の特徴</p> <p>(3) 入院のメリット・デメリット</p>				講義
	4	<p>4 病期における特徴と看護ケアの実際</p> <p>(1) 急性期における身体の特徴とケア</p> <p>(2) 回復期における身体の特徴とケア</p> <p>(3) 慢性期における身体の特徴とケア</p> <p>(4) 日常から気を付けておきたい身体合併症 足のトラブル、日光過敏症、口腔・排便のケア、睡眠のケア</p>				講義
5	<p>5 リスクマネジメントの考え方と方法</p> <p>(1) 行動制限</p> <p>(2) 緊急事態への対処 自殺・暴力・無断離院・感染症</p> <p>(3) 緊急事態とスタッフの支援</p>				講義	

	回数	講義内容	方法
科目内容	6	7 回復支援と実際 (1) 回復とは (2) 回復のためのプログラム (SST、CBT、MBCT)	講義
	7	(3) ストレングスモデル (4) セルフケアの支援 (WRAP)	講義
	8	精神看護におけるコミュニケーション技術	
	9	8 地域移行支援 (1) 医療にかかわるサービス ・ 自立支援医療 (精神通院医療)、精神科外来 ・ 精神科デイホスピタル、精神科訪問看護 (2) 当事者組織	講義
	10	(3) 社会資源とケアマネジメント ・ 相談支援 ・ 障害福祉サービス ・ 精神障害者保健福祉手帳 ・ 障害者の権利擁護	講義
	11	9 事例展開 (1) 情報収集とアセスメントの基礎 ①精神症状の査定 (MSE) の基礎 ②セルフケア (オレム-アンダーウッド理論)	講義
	12	(2) 情報収集の実際 ①カルテからの情報収集 ②初回面接からの情報収集	シミュレーション 演習
	13		
	14	(3) 看護過程の展開 アセスメント・関連図・看護計画立案	グループワーク
	15		

【教育目的】

既習の知識・技術を統合し、対象に応じた看護を実践するとともに、国際的視野にたつて、広く看護を展開できる能力を養う。

【教育目標】

- 1 技術の統合として事例を用いた演習を通し、対象に応じた看護マネジメントの方法を習得する。
- 2 看護技術の統合演習・評価を行い、基礎教育における必要な看護技術を習得する。
- 3 看護師としてのリーダーシップ・メンバーシップ、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。
- 4 医療安全・災害看護の基礎的知識を学び、国際社会において、広い視野にたつて看護師として諸外国との協力について学ぶ。

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
統合分野	看護の統合演習	1	30	3	前期	
<p><講義のねらい></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護技術の総合的な評価を行い、技術を習得する。 2 看護をマネジメントできる基礎的能力を習得する。 						
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護技術到達度の評価が出来る。 2 評価に基づき対象に必要な技術が習得できる。 3 看護チームにおけるリーダー及びメンバーとしての役割がわかる。 4 チームメンバーとして、複数受け持ち患者への看護がマネジメントできる。 						
<p><評価> 終了試験、出席状況、提出物(演習内容に必要な課題を提示する)</p>						
<p><テキスト> 看護実践マネジメント・医療安全(メヂカルフレンド社)</p>						
<p><参考図書> 看護技術プラクティス(学研)、看護管理(医学書院)</p>						
<p><講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	看護の統合演習の目的・目標、 看護実践能力について 他職種とチームワークとコミュニケーションについて 授業の進め方と学習について(グループ及び個人学習) 演習1 複数患者の受持ち患者の看護：業務遂行のためのマネジメント ①事例紹介 ②1日の業務の組み立て ③複数患者を受け持つための情報収集 ④業務時間の管理				講義
	2	演習1 複数患者の受持ち				講義
	3	①対象に必要な処置・看護・観察の視点・看護技術 ②優先度を考えた1日の行動計画立案				
	4	演習1 複数患者の受持ち：看護の実践				演習
	5	①行動計画シミュレーション発表、振り返り				
	6	演習2 多重課題・時間切迫(複数・複合事例)の看護				講義
	7	多重課題の危険性 ①事例紹介 ②看護の優先順位・観察・他者への協力依頼 ③時間切迫への対処(情報収集・危険性)				
		8	演習2 多重課題・時間切迫(複数・複合事例)の看護			
9	①シミュレーション発表、振り返り				演習	

科目 内容	回数	講義内容	方法
	10	演習3 看護技術演習：臨床に即した看護実践 ①事例紹介・対象理解と看護 ②対象に必要な情報・観察の視点・看護・看護技術	講義
	11	②対象に必要な情報・観察の視点・看護・看護技術	演習
	12	③事例シミュレーション発表・振り返り	演習
	13	④全事例 対象に合わせた観察・看護・看護技術確認	演習
	14	⑤臨床に即した看護実践：看護技術試験・評価	演習
	15	⑥振り返り：自己の課題の明確化 まとめ	講義

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	看護管理	1	16	3	後期	
<講義のねらい> 看護管理に必要な理論・知識・態度を養う。						
<到達目標>						
1 看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。						
2 看護チームの責務を理解し組織人としての協働について理解する。						
<評価> 終了試験、課題レポート、出席状況 外部講師 (70点) 教員 (30点)						
<テキスト> 看護管理 (医学書院)						
<参考図書>						
<講義計画>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 看護管理とは (1) 看護管理の定義 (2) 看護マネジメントの変遷 (3) 看護におけるマネジメント				講義
	2	2 看護のケアマネジメント				講義
	3	1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能				
	4	2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理				
	5	4) チーム医療 5) 看護業務の実践				
	6	3 看護職としてのセルフマネジメント				
	6	1) 看護職のキャリア形成 2) 健康管理・ストレスマネジメント				
	7	4 看護サービスのマネジメント				講義
	8	1) 組織としての看護サービス				
9	2) 看護サービス提供のしくみづくり 3) 人材マネジメント					
10	4) ケアを提供する環境のマネジメント					
11	5) 物品のマネジメント 6) 財的資源のマネジメント				講義	
12	7) 業務量のマネジメント 8) 情報のマネジメント					
13	9) 組織にけるリスクマネジメント					
14	10) サービスの評価					
15	5 マネジメントに必要な知識と技術				講義	
16	1) マネジメントの基礎知識 2) 組織とマネジメント					
17	3) 組織の中の集団に関する概念					
18	4) 組織調整のためのツール (技術)					
19	6 看護制度と行政				講義	
20	(1) 看護提供と根幹の法律 (2) 看護の基本となる法律					
21	(3) 看護職の教育制度と国家試験 (4) 看護政策と制度					
22	(5) 看護職の役割拡大とこれからの看護					
23						

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
統合分野	国際協力と災害看護	1	30	3	前期	
<p><講義のねらい></p> <p>国際看護に関する知識を深め、看護の国際協力の必要性を知り、医療ニーズの変化に即した看護職の役割と機能について学ぶ。</p>						
<p><到達目標></p> <p>1 災害と災害看護の役割と機能について学ぶ。</p> <p>2 看護の国際協力の仕組みと役割を理解する。</p>						
<p><評価> 終了試験、課題レポート、出席状況や講義中の態度を加味して総合的に評価する。</p> <p>専任教員 (60 点) 国際外部講師 (40 点)</p>						
<p><テキスト> 災害看護学・国際看護学 (医学書院)</p>						
<p><参考図書> 随時紹介する。</p>						
<p><講義計画> ※1～7回専任教員 8～15回外部講師</p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	<p>1 災害と災害看護</p> <p>(1) 我が国の歴史上の代表的な災害 (2) 災害とは (災害の定義)</p> <p>(3) 災害の種類と特徴 (4) 災害種類別の疾病構造</p>				講義
	2	<p>2 災害サイクルと各期の特徴と時期別にみた影響</p> <p>(1) 急性期 (2) 亜急性期 (3) 慢性期・復興期</p> <p>(4) 静穏期</p>				講義
	3	<p>3 国、都道府県の制度と対応 (支援体制と医療体制)</p> <p>(1) 国 (2) 都道府県 (3) 市町村</p> <p>(4) 災害拠点病院の役割 (5) 我が国における災害医療体制</p> <p>災害時の主な保健医療分野の専門家チーム</p>				講義
	4	<p>4 災害医療</p> <p>(1) 災害医療</p> <p>①災害医療のCSCATTT ②START方法</p> <p>③二次トリアージ</p> <p>(2) トリアージの実際</p> <p>(3) 活動現場別の災害看護</p> <p>被災病院 避難所 福祉避難所 他</p> <p>(4) 災害時における健康危機管理</p> <p>①災害時における感染症対策の重要性 ②感染症対策の実際</p>				講義
5	<p>5 災害時要援護者と災害看護</p> <p>(1) 災害時要援護者とは</p> <p>(2) 災害時要援護者への対応</p> <p>①高齢者 ②障がい者 ③子ども ④慢性疾患患者</p> <p>(糖尿病・慢性腎不全・高血圧・慢性呼吸不全)</p> <p>⑤外国人 ⑥妊産婦・乳児 ⑦精神疾患患者</p>				講義	

	回数	講義内容	方法
科目 内容	6	6 災害とこころのケア (1) 災害時の被災者及び援助者の心理と対処 ①ASD ②PTSD ※こころのトリアージ	講義
	7	7 災害時のボランティア活動	講義
	8	1 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	講義
	9	1) 急性期・亜急性期 (1) 被災病院における看護 (2) 救護所および巡回診療における看護 (3) 避難生活者への看護 (4) 三角巾を使用した応急処置	演習 (体操服・三角巾)
	10	2) 慢性期・復興期	講義 演習 (体操服)
	11	(1) 慢性期における被災住民への看護 (2) 応急仮設住宅における看護 3) 静穏期 (1) 病院防災と地域医療機関との連携 (2) 受援体制の整備 (3) 地域における防災・減災と看護の役割 (4) 搬送法とリラクゼーション	
	12	1 国際看護	講義
	13	(1) 世界の健康問題の現状	
	14	(2) 国際協力のしくみ (ODA JICA WHO 他)	
	15	(3) 開発協力の概要と健康 ①世界の死因など (4) 開発途上国と看護 ①子どもの健康 ②女性の健康 ③感染症 (5) 国際救援と看護 ①災害 (災害と国際協力)	
	備考	地球温暖化に伴う気候変動などの影響もあり、災害の頻度や規模が拡大しています。そのなかで看護職者の期待は大きく、役割を十分に発揮できるようになることが求められています。また、グローバル化の時代において、さまざまな職種と連携し、看護活動を展開できることが重要になっています。	

分野	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当
専門分野	医療安全	1	30	2	前期	
<p><講義のねらい> 看護における安全管理の重要性を理解し、患者の安全を守り、事故を防止するために必要な基礎的知識及び技術を学ぶ。</p>						
<p><到達目標> 医療における安全管理の必要性とその実際を理解する。</p>						
<p><評価> 終了試験、課題レポート、出席状況や講義中の態度を加味して総合的に評価する</p>						
<p><テキスト> ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全（メディカ社） ヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術（医学書院）</p>						
<p><参考図書> <講義計画></p>						
科目内容	回数	講義内容				方法
	1	1 医療安全を学ぶことの大切さ ウォーリーを探せ				演習
	2	(1) 医療事故・看護事故の現状 (2) 医療安全に関する用語				講義
	3	2 国・組織（医療機関）・看護職能団体における医療安全への取り組み				講義
	4	3 医療事故のメカニズム ヒューマンエラー				講義
	5	4 医療安全とコミュニケーション (1) コミュニケーションと防止対策1				講義・演習
	6	(2) コミュニケーションと防止対策2				講義・演習
	7	4 医療のリスクマネジメント (1) 事故分析・リスクマネジメント				講義
	8	4 医療のリスクマネジメント (1) インシデント (2) アクシデントレポート				講義
	9	5 看護師の労働安全衛生上の事故防止				講義
	10					
	11	6 看護学生の実習と安全				講義
	12	7 KYT				講義・演習
	13	8 医療安全の取り組みの実際				講義
	14					講義
	15					演習
備考	看護師は医療行為の最終的な医療行為者や観察者となることが多く、医療安全の観点から「してはならないこと」「すべきこと」を見極められるようになることが求められています。看護行為における根拠・理由を考え、理解し行動できることが看護師として重要になります。					

9 臨地実習 [23 単位] 1035 時間

■ 基礎看護学実習 [3 単位] 135 時間

【実習目的】

成人看護学・老年看護学・健康状態別看護・小児看護学・母性看護学・精神看護学・地域・在宅看護論・統合実習に応用できる基礎的知識・技術・態度を修得し、対象の日常生活に応じた看護の展開ができる。

【実習目標】

- 1 対象を取り巻く環境をとらえることができる。
- 2 看護者としての基本的態度を身につけることができる。
- 3 対象に応じた日常生活の援助ができる。
- 4 看護過程の展開方法がわかる。
- 5 基礎看護学実習を通して、看護についての考えを深めることができる。

【実習の構成】

基礎看護学実習 3 単位 135 時間		
1 年次		2 年次
基礎看護学実習 I - 1	基礎看護学実習 I - 2	基礎看護学実習 II
1 単位 45 時間		2 単位 90 時間
【目的】 患者を取り巻く環境がわかる。	【目的】 対象のニーズに合わせた日常生活の援助がわかる。	【目的】 看護過程を用いて対象の日常生活援助が実施できる。

【実習目的】

地域で生活する人々の健康上の問題と関連する諸問題を理解し、看護の果たす役割を認識し、行動できる能力を養う。

【実習目標】

- 1 地域包括ケアを必要とする対象とその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。
- 2 健康の保持・増進、疾病の予防・回復における基礎的看護が実施できる。
- 3 社会資源の種類と活用方法を理解する。
- 4 継続看護の必要性と方法を理解する。(看護職の連携)
- 5 地域包括ケアにおける多機関・多職種連携と看護の果たす役割を理解する。

【実習の構成】

地域・在宅看護論実習Ⅰ (市町村保健センター) 45時間	地域・在宅看護論実習Ⅱ (訪問看護ステーション) 30時間	地域・在宅看護論実習Ⅲ (地域包括支援センター) 15時間
<p>【目的】 地域で生活する人々の健康上の問題と関連する諸問題を理解し、健康の保持・増進・疾病の予防に向けての看護活動を学ぶ。</p>	<p>【目的】 在宅ケアを受ける対象を理解し、看護の役割と看護活動の実際について学ぶ。</p>	<p>【目的】 地域で生活する高齢者の実情を知り、高齢者の健康の保持と生活の安定に向けての援助について学ぶ。</p>

■健康状態別看護実習[6 単位] 成人看護学実習[2 単位] 360 時間

【実習目的】

成人・老年期にある対象と家族を理解し、健康障害、健康状態に応じた基礎的な看護実践能力を習得する。

【実習目標】

- 1 成人・老年期にある人の身体的・精神的・社会的特徴と発達課題を踏まえ、生活者としての対象を理解する。
- 2 対象の健康レベル・経過に応じた援助を実践できる。
- 3 理論を活用した対象アセスメントと援助技術を身につける。
- 4 継続看護の必要性を理解し、社会資源の活用と社会復帰への援助方法を理解できる。
- 5 保健・医療・福祉の連携とチームでの看護の役割が理解できる。
- 6 看護者としての姿勢、態度を身につけ、自己の成長に向け努力できる。

【実習の構成】

	健康状態別看護実習 I	健康状態別看護実習 II	健康状態別看護実習 III	成人看護学実習 (健康状態別看護実習IV)
時間	90時間	90時間	90時間	90時間
単位	2単位	2単位	2単位	成人2単位
健康レベル	慢性期	回復期	慢性期(外来) 終末期	急性期 周手術期
目的	健康障害のある対象を生活者としてとらえ、生活過程を整える方法を学ぶ	多様な健康障害のある対象を生活者としてとらえ、健康生活の再構築への看護を学ぶ。	1 社会生活を営みながら治療を継続する人の看護を学ぶ。 2 緩和ケアが必要な対象と家族の特徴を理解し、苦痛の緩和とQOL向上のための看護を学ぶ。	急激な健康状態の変化にある対象を理解し、健康の回復と生活の再建に向けた看護を学ぶ。

【教育目的】

老年期にある対象の発達段階と老化の特徴及び健康障害による問題を把握し、人格を尊重した対象と家族への看護の実際を学ぶ。

【教育目標】

- 1 高齢者の身体的・精神的・社会的変化が理解でき、ライフステージと個別の発達課題を理解する。
- 2 高齢者の日常生活行動・健康状況を把握し、生活背景・生活習慣との関連から健康の維持・増進、健康障害の予防のために必要な援助ができる。
- 3 高齢者の健康障害とそれに伴う諸問題について理解し、高齢者と家族に対する看護の方法を学ぶ。
- 4 老年者とその家族の生活を支える保健・医療・福祉の各専門職種との連携とチームメンバーとしての看護の役割・機能について理解する。
- 5 高齢者の人格と生命を尊重した関わりができる。

【実習の構成】

入所	通所リハビリテーション	居宅介護支援センター
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者とその家族の生活を支える看護について学ぶ。 ・ 保健・医療・福祉のチーム連携と、その中での看護の役割について学ぶ。 		
<p>【目的】 介護老人保健施設の対象を知り、役割について学ぶ。</p>	<p>【目的】 通所リハビリテーションの対象を知り、役割と援助の実際について学ぶ</p>	<p>【目的】 居宅介護支援センターの対象を知り、介護支援専門員の役割と援助の実際について学ぶ。</p>
<p>実習場所：天草中央総合病院附属介護老人保健施設</p>		<p>実習場所：天草中央総合病院附属居宅介護支援センター</p>

■ 小児看護学実習 [2 単位] 90 時間

【実習目的】

病気をもつ子どもあるいは発達支援を必要とする子どもを全人的に理解し、さらに子どもとその家族に必要な基本的な看護を習得する。

【実習目標】

- 1 子どもを一人の人間として尊重し、関係を築くことができる。
- 2 病気をもつ子どもあるいは発達支援を必要とする子どもを個別的に理解し、知識と技術を統合して、根拠に基づいた看護実践ができる能力を養う。
- 3 子どもを取り巻く保健・医療、福祉、教育、地域の連携と看護職の役割を理解できる。

【実習の構成】

病気をもつ子どもの看護 (小児科外来) 30時間	病気をもつ子どもの看護 (小児科病棟) 30時間	発達支援を必要とする 子どもへの援助 (児童発達支援センター) 30時間
【目的】 病気をもつ子どもを通し、発達段階に応じた外来看護と対象の生活を学ぶ。	【目的】 入院中の子どもとその家族に関わる看護問題を科学的に判断し、根拠に基づいた看護実践を学ぶ。	【目的】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達支援を必要とする子どもの療育を学び、地域で暮らす子どもの支援の実際がわかる。 ・ 発達支援を受けながら地域で生活する子どもを取り巻く連携がわかる。

■ 母性看護学実習 [2 単位] 90 時間

【実習目的】

妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の特性を理解し、それぞれの過程
 における看護の方法を学ぶ。

【実習目標】

- 1 妊産褥婦の身体的・心理的・社会的特徴および新生児の胎外生活適応過程を
 理解する。
- 2 妊産褥婦および新生児とその家族の看護上の問題を把握し、必要な援助を計
 画・実施できる。
- 3 女性生殖器障害のある対象を理解し、必要な看護がわかる。
- 4 母子保健医療チームにおける看護師の役割について理解し、継続看護の必要
 性についてわかる。
- 5 自己の母性観・父性観を深めることができる。

【実習の構成】

妊婦の看護・女性生殖器障害 のある対象の看護・産婦の看護 (産婦人科外来・分娩室) 30時間	新生児の看護 (新生児室) 30時間	褥婦の看護・女性生殖器障害 のある対象の看護 (産婦人科病棟) 30時間
<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦人科外来実習を通し、 妊娠期・女性生殖器障害のあ る対象への看護について学 ぶ。 ・ 分娩室実習を通し産婦の看 護について学ぶ。(1日) 	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新生児室実習を通し、胎外 生活適応過程にある児への 看護について学ぶ。 	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病棟実習を通し、産褥期・ 女性生殖器障害のある対象 への看護について学ぶ。

■ 精神看護学実習 [2 単位] 90 時間

【実習目的】

精神疾患・障害をもつ人とその家族との関わりを通して、精神科における治療・看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ。

【実習目標】

- 1 精神科病棟の治療的環境が理解できる。
- 2 精神疾患・障害のある対象の状態を理解できる。
- 3 対象に応じた日常生活の援助が実践できる。
- 4 援助過程の再構成により自己理解ができる。
- 5 自己の内面を知り、自己洞察できる。
- 6 精神に障害を持つ人を取り巻く多職種の役割や連携を理解する。

【実習の構成】

精神科療養病棟 7 1. 5 時間	精神科外来・訪問看護 1 1 時間	障がい者支援施設 7. 5 時間
【目的】 精神に障害を持つ患者とその家族との関わりを通して、看護の基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。	【目的】 地域で生活する精神に障害を持つ人への生活支援の連携や看護の役割を学ぶ。	【目的】 精神に障害を持つ人が利用できる社会資源での体験を通し、多職種の役割や連携を学ぶ。

■ 統合実習 [2 単位] 90 時間

【実習目的】

看護チームの一員としての体験、一勤務帯実習・複数受け持ちの実習を通して、知識・技術・態度を統合し、専門職として必要な看護実践能力を高める。

【実習目標】

- 1 看護管理の実際がわかる。
- 2 複数受け持ちの基本的な看護行為の実践ができる。
- 3 チーム内での自己の役割が考えられ、チームの一員としてメンバーシップを発揮した行動がとれる。

【実習の構成】

看護管理実習 (1日)	チームリーダー 実習(1日)	チームメンバー 実習(1日)	夜間実習 (1日)	複数受け持ち実習 (8日)
【目的】 組織管理・病棟 管理の実際がわ かる。	【目的】 チームリーダ ーの役割と業務 調整の方法がわ かる。	【目的】 チームメンバ ーの役割と業務 調整の方法がわ かる。	【目的】 夜間体制にお ける看護師の役 割と業務がわか る。	【目的】 受け持ち対象の状況 と病棟の状況を踏ま えて、適切な優先順位 の判断ができ、複数対 象への対応ができる。 チーム内での自己 の役割が考えられ、チ ームの一員としてメ ンバーシップを発揮 した行動がとれる。

5 授業科目、単位数、時間数、実務経験のある教員、講師の職種等 (職種等はR6年度の予定)

教育内容		授業科目名	単位	時間	実務経験のある教員	講師の職種等	
基礎分野	基 盤 的 思 考 の 科 学 的	生物と環境	1	16	○	大学准教授	
		統計学	1	30	○	大学准教授	
		情報科学	1	30	○	大学助教・大学准教授	
	人 間 と 生 活 、 社 会 の 理 解	哲学	1	30	○	寺住職・高等学校講師	
		コミュニケーション論	2	30	○	大学准教授	
		教育学	1	30	○	大学講師	
		心理学	1	30	○	公認心理師	
		文学	1	30	○	大学客員教授・大学名誉教授	
		法学	1	30	○	大学准教授	
		社会学	1	30		大学名誉教授	
		外国語 英語	2	60	○	英会話スクール校長・英語教師	
	保健体育	1	30		大学名誉教授		
	基礎分野 小計			14	376		
	専門基礎分野	造 人 と 機 能 の 構 成	解剖生理学Ⅰ	1	30	○	医師
解剖生理学Ⅱ			1	30		大学名誉教授	
生化学(栄養学含む)			1	30	○	大学教授	
疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進		微生物学	1	30	○	臨床検査技師	
		病態治療学Ⅰ(総論)	1	30	○	大学教授・臨床検査技師	
		病態治療学Ⅱ(呼吸器系、循環器系、血液系)	1	30	○	医師	
		病態治療学Ⅲ(消化器系、腎・泌尿器系)	1	30	○	医師	
		病態治療学Ⅳ(脳神経系、摂食嚥下)	1	30	○	医師・大学准教授	
		病態治療学Ⅴ(運動器系、リハビリ)	1	30	○	医師・理学療法士	
		病態治療学Ⅵ(内分泌代謝系)	1	30	○	医師・管理栄養士・運動指導士	
		病態治療学Ⅶ(アレルギー)	1	16	○	医師	
		病態治療学Ⅷ(感覚器系)	1	30	○	医師・歯科医師	
		病態治療学Ⅸ(放射線、ME、検査)	1	30	○	医師・臨床工学技士・臨床検査技師	
病態治療学Ⅹ(救急、手術、麻酔)		1	30	○	医師・救命救急士・看護師		
臨床薬理学		2	30	○	大学名誉教授・管理薬剤師		
障 害 と 社 会 支 援		公衆衛生学	2	30		専門学校講師	
		社会福祉	2	30	○	社会福祉士	
	医療と関係法規	2	30	○	医師・教員・薬剤師・行政各担当		
専門基礎分野 小計			22	526			
基礎分野、専門基礎分野 合計			36	902			
基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ(看護学概論)	1	30	○	教員		
	基礎看護学概論Ⅱ(看護過程)	1	30	○	教員		
	基礎看護学概論Ⅲ(看護研究)	1	30	○	教員		
	共通基本技術Ⅰ(技術の概念、コミュニケーション、感染)	1	30	○	教員		
	共通基本技術Ⅱ(バイタルサイン、フィジカルアセスメント)	1	30	○	教員		
	日常生活援助技術Ⅰ(環境、活動と休息)	1	30	○	教員		
	日常生活援助技術Ⅱ(食と排泄)	1	30	○	教員		
	日常生活援助技術Ⅲ(清潔)	1	30	○	教員		
	与薬と検査に伴う看護技術	1	30	○	教員		
	臨床看護学Ⅰ(回復・慢性・終末期の看護)	1	30	○	教員		
	臨床看護学Ⅱ(急性期の看護)	1	30	○	看護師・教員		

5 授業科目、単位数、時間数、実務経験のある教員、講師の職種等 (職種等はR6年度の予定)

教育内容		授業科目名	単位	時間	実務経験のある教員	講師の職種等
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論	1	16	○	教員
		在宅ケアマネジメント論	1	16	○	教員
		地域・在宅看護方法論Ⅰ(在宅医療)	1	16	○	医師
		地域・在宅看護方法論Ⅱ(在宅看護の共通基本技術)	1	30	○	看護師
		地域・在宅看護方法論Ⅲ(医療管理を必要とする人の看護)	1	30	○	看護師
		地域・在宅看護方法論Ⅳ(看護過程、経過・疾患別看護)	1	16	○	教員
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	○	教員
		成人看護学方法論Ⅰ(呼吸器系、消化器系)	1	30	○	看護師・教員
		成人看護学方法論Ⅱ(循環器系、身体防御)	1	30	○	教員
		成人看護学方法論Ⅲ(脳神経系、性・生殖器系)	1	30	○	教員
		成人看護学方法論Ⅳ(内分泌・代謝系、腎臓、感覚器系)	1	30	○	看護師・教員
		成人看護学方法論Ⅴ(がん看護、緩和ケア)	1	30	○	看護師・教員
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	○	教員
		老年看護学方法論Ⅰ	1	16	○	看護師・教員
		老年看護学方法論Ⅱ	1	16	○	看護師・教員
		老年看護学方法論Ⅲ	1	30	○	医師・看護師・教員
	小児看護学	小児看護学概論Ⅰ	1	30	○	教員
		小児看護学概論Ⅱ	1	30	○	教員
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30	○	医師
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30	○	教員
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	○	教員
		母性看護学方法論Ⅰ(産婦人科の疾患)	1	30	○	医師
		母性看護学方法論Ⅱ(妊娠期から産褥期の看護)	1	30	○	助産師
		母性看護学方法論Ⅲ(産婦人科の看護過程、産婦人科疾患の看護)	1	30	○	教員
	精神看護学	精神看護学概論Ⅰ	1	30	○	教員
		精神看護学概論Ⅱ	1	16	○	医師・教員
		精神看護学方法論Ⅰ	1	16	○	医師・看護師・教員
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30	○	教員
	看護実践の統合	看護の統合演習	1	30	○	教員
		看護管理	1	16	○	看護師・教員
		国際協力と災害看護	1	30	○	看護師・教員
		医療安全	1	30	○	看護師・教員
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	○	教員
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	○	教員
		地域・在宅看護論実習	2	90	○	教員
		健康状態別看護実習Ⅰ	2	90	○	教員
		健康状態別看護実習Ⅱ	2	90	○	教員
		健康状態別看護実習Ⅲ	2	90	○	教員
		成人看護学実習(健康状態別看護実習Ⅳ)	2	90	○	教員
		老年看護学実習	2	90	○	教員
		小児看護学実習	2	90	○	教員
		母性看護学実習	2	90	○	教員
精神看護学実習		2	90	○	教員	
統合実習		2	90	○	教員	
専門分野 小計			66	2199		
総計			102	3101		
内 実務経験のある教員が担当している単位数			97			